

—— 河正雄挨拶録 ——

2026・8+8

米寿に寄せて



私塾清里銀河塾

2026年

—— 河正雄挨拶録 ——

2026・8+8

米寿に寄せて

目 次

大柴邦彦北杜市長様への新春の挨拶	(2026. 1.10)	2
韓日国交正常化 60 周年記念展「浅川兄弟の遺した道」展		
開幕式祝辞.....	(2025.12. 4)	4
仙北市文学碑顕彰碑除幕式挨拶.....	(2025.11.26)	6
戦後 80 周年日韓国交正常化 60 周年記念		
第 13 回朝鮮人無縁仏追悼慰靈祭挨拶	(2025.11.24)	9
資料・報告書(1950 年—2025 年)	(2025.12.25)	12
第 25 回 2025 河正雄青年作家招待“光”展挨拶	(2025.11.18)	16
2025 青木繁「海の幸」記念館開館 10 周年記念祝賀会祝辭	(2025. 11. 2)	18
光州広域市視覚障碍者連合会「東江・河正雄賞」授与式		
祝辞・激励辭	(2025.10.28)	25
浅川兄弟顕彰碑「碑閣・露山閣」お披露目式祝辞	(2025.10.28)	28
安部哲男先生瑞宝双光章受章記念祝賀会祝辭	(2025. 8.24)	30
「再び描かれた世界 2025」展祝辞	(2025. 8. 8)	32
青木繁「海の幸」記念館開館 10 周年記念祝賀会祝辭	(2025. 5.24)	34
糸井重里・松田解子 2025 国際シンポジウムに寄せて	(2025. 5.18)	36
祈りの美術・河正雄コレクション「報恩展」での挨拶	(2025. 2.21)	40
「河正雄コレクションで出会う韓国抽象美術展」開幕式挨拶	(2024. 6.18)	43
韓屋文化ビエンナーレ開催のためのシンポジウム記念辞	(2024. 4. 4)	45
「因縁資本」出版記念会答辭.....	(2023.11. 3)	47

大柴邦彦北杜市長様への新春の御挨拶

2026年の新春を寿ぎます。

本日、新年早々に御公務、御多用のところ御面談賜り幸いです。

今年は丙の午年、飛躍挑戦への希望の年です。私は八十八(8+8)の米寿、ダブル末広がりの喜ばしい年を迎え、心新たにしております。

清里に初めて降り立ち縁を結んだのが1961年5月 5 日のこと。その時のポール・ラッシュ博士との出会いが私の人生の出発点でありました。

以来、山紫水明の地、清里に居を構え、子供らを育て米寿を迎える今年までの65年が夢のようです。

これまで北杜市の皆々様と共に、敬愛し尊敬する浅川兄弟を顕彰する報恩事業に関わり微力ながらお手伝い出来ましたことは人生の冥利がありました。

本日はこれまでの御恩顧に感謝を申し上げ、新年への希望をお伝え出来ることは誠に光栄の至りです。

私の初心である念願は、浅川兄弟資料館を博物館としての機能を拡張し、北杜市の文化資本として発展させること、浅川学を次世代に継いで青少年教育の振興と普及に力を注ぎ、更に矜持を高めていくことが必須の課題で、その取り組みを加速させて欲しいのです。

私の初心とは 2001 年に浅川伯教・巧兄弟資料館竣工の折、大柴恒雄高根町長、浅川兄弟を偲ぶ会会長の要請により、兄弟に関わる美術品、民芸品などを寄贈致しました。

寄贈条件として資料館運営にあたり寄贈品を収蔵するだけ、文物を作品として陳列するだけにしないで欲しい。それらの文物を学術研究し、兄弟が歩んだ足跡と共に生きた日韓の不幸な時代と歴史を検証する博物館。兄弟の業績を顕彰し、それらの研究成果を日韓の友好親善事業の成果を示す拠点として供することを願って具申致しました。

現在、資料館に収蔵されている文物は資料館から溢れるほどになり、浅川学を構築発展させる博物館に相応しいものばかりです。

唯今、昨年来より開催されている韓国文化院での『浅川兄弟の遺した道・朝鮮の自然と文化そして人

間を愛した伯教と巧』韓日国交正常化 60 周年記念展は、遅くなりましたが浅川兄弟への報恩の一端として、その成果を顕彰できたものと評価されることでしょう。知恵を磨き将来を切り拓く偉業をなされるよう新たに念願し具申するものです。

12月20日に行われた『韓日交流の過去・現在・未来・浅川兄弟から学ぶこと』記念講演で金敬默早稲田大学教授が述べたことです。

「浅川兄弟のことを学び業績を知れば知るほど知名度と権威が上がる。その時代、浅川兄弟のような行い、思いをした韓日の人々がたくさんいた筈だ。その人々にも光を照らして共に矜持を高めていく研究、浅川学を深めていかねばならない。」との言葉に、これまで私の持論と考え、行い全てに於いて肩の荷が下りた思いです。

新しい年が世界へと羽ばたく北杜市の輝かしい発展の出発点となり、希望の光を放つ年となりますことと、皆様の平安と御多幸をお祈りします。

2026年1月10日



浅川伯教・巧兄弟記念公園竣工式テープカット（2023.8.6）

『韓日国交正常化 60 周年記念展浅川兄弟の遺した道展』開幕式祝辞

今年は戦後80年、韓日国交正常化80年を記念して韓国文化院、そして韓日間で大阪万博を始めとする数多くの文化行事が行われ、また明日からは横浜美術館にて韓国国立近代美術館に巡回する日本と韓国アート80年を回顧する『いつも隣にいるから』展が開かれます。

本日はそれらの有終の美を飾る『浅川兄弟の遺した道展』開幕式に御招待頂き祝辞を述べる場を下さったこと、嬉しく思います。今年は正月から、私が歩んできた人生を回顧する行事が続いて感無量であります。

先月26日は故郷秋田県仙北市角館町での『仙北市文学顕彰碑』寄贈除幕式に於いて、人生のハイライトのようで感無量であると挨拶を致しました。また本日の浅川兄弟展開幕式は、それに増して感無量の極み、感慨深い想いが新たに募ります。

人生は出会いが決めるという教えがあります。1958年、秋田工業高校3年の秋に秋田県立図書館で安部能成著『青丘雑記』を読みました。その中に『浅川巧さんを惜しむ』『浅川君の朝鮮陶磁器名考』という文章があり、それは浅川巧さんへの追悼文と業績を顕彰した文がありました。

特に朝鮮陶磁器名考の末尾に浅川巧さんが著した「民衆が目覚めて自ら生み自ら育ててゆくところにすべての幸福があると信じる」の銘文に私は啓示と啓発を受け、在日を生きる矜持を高めました。

朝鮮の荒れた山河を植林で青く清くしたことや、失った民族の伝統美を甦らせたこと、韓国の民族着を着てマッコリを飲み、韓国語で韓国人と共に生き、心を通わせた浅川巧さんは『露堂堂』と生きた人であると著されており感銘を受けました。

『露堂堂』とは禪の言葉で、偉い人たちの解釈や説明はいろいろと難しいのですが、私は『悪いことをすれば悪いことが表れ、悪いことをすれば悪いことが結果となって表れる』という自己解釈をして、自分の人生の哲学としました。

以来、浅川巧さんへの憧れは敬愛と感謝となり、私も浅川巧さんのように露堂堂と在日を生きる、生きたいと心にしたことが私の歩む人生の指標となりました。浅川巧さんの生きる姿、考え方、日々の行い、

嘗みに親しみ共感したからです。

日韓で長い間忘れ去られ、歴史の中に埋没していた人がありました。1997年、韓国に於いて没後64年にして、初めての『浅川巧公韓日合同追慕祭』が開かれ追慕の辞を述べる機会を頂いたこと、その年の浅川兄弟を偲ぶ会総会に於いては『私と清里そして浅川兄弟』という、初めての顕彰講演が出来たこと、そしてこれまで浅川兄弟を偲ぶ会の相談役として微力ながら尽力出来ましたことは幸いありました。

例年開かれる浅川兄弟を偲ぶ会総会に於いては、地元の元山梨県議会議長浅川力三氏が「井戸を掘った人を忘れてはならない」と、いつも道理を話されております。浅川兄弟を偲び顕彰する日韓の心ある人々が心を合わせて、光を照らしてきたことが形となり、花となって咲き、この度の実のある展示会となつたこと思います。

井戸を掘った日韓の人々の、これまで汗を流した多くの行程、嘗みこそが浅川兄弟への報恩、感謝の証であります。今を生きる我々への教えは、露堂堂と生きた浅川兄弟の遺徳、恩徳と思います。

戦後80年韓日国交正常化60周年を締め括るこの度の韓国文化院の企画に、北杜市、北杜市教育委員会、浅川伯教・巧兄弟資料館の渾身を込めた共催の展示に感謝と敬意を表します。

また期間中、記念講演会と映画『道・白磁の人』記念上映会も行われ、この記念展を契機に多くの方々が「温故知新、故きを温ねて新しきを知る」、浅川兄弟の足跡を回顧する新しい出会いが生まれ啓発されることでしょう。

新たなる学びの場となりますよう祈念し、「昔植えた苗木、今大きく育つ。今日植える苗木、末の大木」浅川兄弟の故郷、北杜市須玉町にある禅寺海岸寺の教えをメッセージとし祝辞と致します。最後にくる年が幸いでありますよう皆々様の御健勝と平安、御多幸を祈ります。



韓国文化院発行チラシ

2025年12月4日

仙北市文学顕彰碑除幕式挨拶

御紹介頂きました河正雄(ハ・ジョンウン)です。除幕式開会の辞を述べられた須田教育長様が「感無量である」とおっしゃられました。

私は今年の正月から何故か感無量の行事が続き、この度の除幕式が人生のハイライトのようで感無量な想いであります。

本日は仙北市文学顕彰碑除幕式おめでとうございます。この善き日に御招待下さり挨拶を述べるにあたり感慨深いものがあります。

私は2024年9月18日、須田喬仙北市教育長宛に『具申書・田沢湖は文学の郷である』を送りましたことから、本日の慶事に至る経緯を述べ喜びを分かち合いたいと思います。

2004 年『私の母校、秋田工業高校の研究学徒に未来の希望と活力を与える象徴』として秋田工業高等学校創立 100 周年記念モニュメントのブロンズ像「明日の太陽」の作品を寄贈しました。

同年『秋工 100 年誌』が発行され、『主な著名人』として 9 名が選ばれました。母校のために何も出来なかつた著名人でもない私が選ばれ、何かの間違いではないかと驚きました。

その時、母校の先輩である仙北市田沢湖町田沢出身の直木賞作家千葉治平氏(1921 年-1991 年)の名がないことを知り、また出身地田沢湖町にも顕彰碑がないことに私は長年の間、寂寥感を抱いてきました。

私は 2021 年田沢湖畔御座の石神社のある所に『ふるさとの碑』を建立し、仙北市に寄贈しました。この碑設置にあたり、最初の候補地は田沢湖クニマス未来館のある場所でした。糸余曲折の末に御座の石神社のある公園に收まりました。

その時、初めて市からクニマス未来館の駐車場脇に千葉治平氏の文学立看板があることを知らされました。私はそれまで観光案内の印刷物なども目にしたことはありませんでした。木造の掲示板が朽ちかけ埋もれており、文学の顕彰板とはとても思えぬ在り様に虚しさと淋しさを感じました。

見兼ねて千葉俊成前クニマス未来館館長に『ふるさとの碑』と同時に千葉治平氏の文学碑建立を申し

出たところ、『ふるさとの碑』建立後の話にしましようと答えられたのでこれまで案を温めていました。

その話を友人の茶谷十六先生に語ったところ、田沢湖畔にある姫観音の建立地に千葉治平氏の文学碑建立推進を自分が中心となってすると持ち掛けられました。

1988年、第99回直木賞作家となつた中学時代からの畏友である仙北市西明寺出身の西木正明(1940年-2023年)氏も同郷仙北市の出身作家であることから、私と御縁がある御二人と共に顕彰する碑ならばと同意しましたが、その後の進展はありませんでした。

今年の2月、仙北市立角館町平福記念美術館にて、これまで同館や田沢湖図書館に美術作品を寄贈してきた河正雄コレクション展が開催されることとなりました。2011年には小学校

時代からの同級生安部哲男先生の要請で同美術館に於いて河正雄コレクション『故郷展』が開催された経緯があります。

そして本年2月、同美術館にて仙北市に寄贈してきた河正雄コレクション祈りの美術『報恩展』が開かれました。

このコレクション展開催にあたり私は仙北市に形ある報恩の印をと心碎いていました。そこで私と御

2025年(令和7年)1月27日 木曜日 炎田さきが

市ゆかり文学者 顕彰碑に名刻む

仙北 寄贈・河さんら除幕式

直木賞作家、西木正明さんら
市ゆかりのある文学者4人
(いずれも故人の功績を伝
える顕彰碑が同市角館町の市
総合情報センターの前庭に建
立され、26日に除幕式が行わ
れた。田沢湖人の西で、鶴岡・光州
市立美術館館長の河正雄
さん(61)は高さ約2メートルの
顕彰碑は高さ約2メートル、額縁
3枚で開いた本をイメージ
寄贈した。

西木さんは、西木村(現秋田市)で育つた在
田沢湖地域で育つた在
田沢湖人の西で、鶴岡・光州
市立美術館館長の河正雄
さん(61)は高さ約2メートルの
顕彰碑は高さ約2メートル、額縁
3枚で開いた本をイメージ
寄贈した。

西木さんは、西木村(現秋田市)で育つた在
田沢湖人の西で、鶴岡・光州
市立美術館館長の河正雄
さん(61)は高さ約2メートルの
顕彰碑は高さ約2メートル、額縁
3枚で開いた本をイメージ
寄贈した。



顕彰碑について説明する
河さん

新潮社記念文学館、建立記念企画展 直筆原稿、書簡など並ぶ

顕彰碑の建立を記念した企画展「綴られた記憶—仙北市の四人の作家、その言葉と筆跡」が、仙北市角館の新潮社記念文学館で開かれていた。同館が所蔵する直筆原稿や書簡など約60点が並ぶ。来年2月15日まで。

顕彰碑に名前が刻まれた西木正明さん、渡辺喜恵子さん、千葉治平さん、高井有一さんの功績に、改めて光を当てようと市教育委員会が企画した。直木賞、芥川賞の受賞作など直筆原稿のほか書簡も展示。このうち、高井さんが千葉さんに宛てた書簡では作家としての心境や秋田への思いがつづられている。西木さんのパスポートや、それぞれの作家が愛用していた万年筆なども見応えがある。

企画展を担当する同館業務係長の石川貴久子さんは「生の筆跡だからこそ伝わってくるものがあると思う。顕彰碑とともに企画展にも足を運んでもらえればうれしい」と話した。

午前9時~午後5時(12月から4時半)。入館は閉館の30分前まで。月曜と12月28日~来年1月5日は休館。高校生以上500円、中小学生300円、仙北市民は無料。問い合わせは新潮社記念文学館 0187-43-3333



新潮社記念文学館で開催されている企画展

秋田さきがけ (2025.11.26)

縁のある御二人の直木賞作家を市が顕彰、建立してくれるならば、報恩の心を込めて文学碑を寄贈したいという意思を昨年、須田教育長へ受諾可能かの打診を畏友安部哲男先生に依頼しました。

その時、それまで存じ上げなかった仙北市桧木内出身の直木賞作家渡辺喜恵子氏(1913年-1997年)がいることを御兩人から初めて知らされました。3人を一緒に顕彰は可能であるかと提案され、それを快諾しました。

追って角館町に縁故のあった芥川賞作家・高井有一(1932年-2016年)氏を加えて良いかと打診がありましたので喜んで受け入れました。

偶然にも仙北市でもこの4人の文学碑建立を進める話が持ち上がっていると知らされました。ならば千載一遇、私の長年の願いが熟し実る所にあるのだと喜んでおります。

本来、光が当たるべきものにきちんと光を照らせば、その輝きは本来の価値以上に輝きが増すものです。

田沢湖周辺の村々から4人の芥川賞、直木賞作家が生まれていたことに新たなる光が当たることは、次世代は勿論、文学を志す若人や愛好家達にとって文学のメッカ、拠点となり新しい文学の里田沢湖観光の光になるであろうと確信しての具申でありました。

具申後の2015年4月15日、赤上陽一仙北市副市長に面談し主意を述べたところ、「喜んで受けます。」と快諾されて議会を通し本日に至りましたのは慶賀の至りです。

一年に渡る進行にあたり細やかな手続きと調整をして下さった安部先生や須田教育長、川口市の関戸石材様を始めとする関係者の皆々様に感謝を申し上げ、仙北市民の英知を称え敬意を表したいと思います。

仙北市学習資料館イベント交流館にて、文学碑建立除幕を記念した企画展示『綴られた記憶 仙北市の4人の作家 その言葉と筆跡』が開催されます。新たなる出会いと学びの場となるでしょう。学ぶことにより矜持が高まるでしょう。

愛する文学の里田沢湖から、いつの日かノーベル文学賞の作家が生まれることを夢に見て、この碑が希望のシンボルになりますよう祈念して挨拶と致します。

2025年11月26日

戦後80周年日韓国交正常化60周年記念

第13回朝鮮人無縁仏追悼慰靈祭挨拶

人間は忘れる動物です。戦後、私達は実に沢山の大事な事を忘れ、捨てて参りました。節目に忘れてはならない事を、思い返して立ち止まり回顧する事、内省し想いを新たにする事は、私達の未来に多くの豊かな物をもたらすと思います。

1937 年より行われた国策工事である、田沢湖を水源とする周辺の発電所工事には多くの朝鮮人が徴用されました。

「1946 年厚生省「朝鮮人労務者に関する調査」(秋田県覚書)」の記録があります。角館出張所堀内組先達出張所における官斡旋徴用者名簿で、徴用工 307 名の出身地を調べると、慶尚南道 3 名、全羅北道 1 名、無籍 3 名、不明 1 名で、残る 299 名は父母の出身地である全羅南道でありました。父母の故郷、靈岩からは 12 名もの徴用者がおり、私はその内 1 名の生存者を捜し当てました。

1999 年、秋田県朝鮮人強制連行調査団の野添憲二団長、秋田朝日テレビスタッフの皆さんと共に、85 歳になった靈岩の曹四鉉氏の家を訪れました。曹四鉉氏の証言によると「先達で靈岩の隣村の若者が作業中に怪我を負って亡くなつた。資料では終戦直後に退職手当金が支給された事になっているが、私は一銭も貰っていない。靈岩に帰つてから今日まで貧困に喘ぎ、今は病氣で病院通いをしている。補償して欲しい。」と訴えられました。

「先達では労働条件の劣悪さから逃げ出す人がいたが、すぐに捕まつて殴られた。それでも逃げ出す人は後を絶たず、消息が無くなつた。今は、秋田に行けるのであれば田沢に行ってみたい。田沢は忘れられない第二の故郷でもある。」と語りました。その翌々年、曹四鉉氏は悔恨の言葉を残して亡くなられました。

私達は 1990 年、田沢寺にて初めて慰靈祭を行い、不幸にして亡くなられた朝鮮人無縁仏慰靈碑を建てて慰靈祭を開催致しました。

その時「人類愛を持って善い心で私は慰靈したい。」と佐藤勇一會長に話した事から、1991 年「田沢



朝鮮人無縁仏 追悼慰靈祭 於 田沢寺 平成 2年 9月23日

田沢湖姫観音供養祭(1990. 9. 23)

湖町よい心の会」が結成されました。1999年、田沢寺に「よい心の碑」を建立し、姫観音供養、そして田沢寺で慰靈祭が行われて参りました。

朝鮮人の靈を慰める「善い心」の深い意味は人道的、道徳的であり、慈悲の心に満ちた崇高なものであります。慈悲の心を架け橋として、日韓の人々が理解を深め合う事が必要です。

本日、田沢寺に於いて戦後80周年、日韓国交正常化60周年を記念しての第13回朝鮮人無縁仏慰靈祭が開催出来ることは、善い心の発露と喜びます。

これまでの慰靈祭の経緯を述べますと、田沢湖町よい心の会主催で1990年より2015年まで戦後70周年、日韓国交正常化50周年記念の第11回まで毎年開催されました。しかし2017年に私が心臓病の手術、2020年にコロナ流行と継続して働くことが出来ず心残りがありました。

しかし、2019年には田沢湖姫観音像開眼80周年実行委員会による第12回田沢寺朝鮮人無縁仏追悼慰靈祭、2020年からは仙北市民有志が引き継がれて姫観音、田沢寺の『よい心の碑』前での清掃を行い、供養会を実行されてきました。善い心の市民が自主的に営まれ麗しい話です。

振り返れば35年の間、世界は日韓の間にも日本国内にも絶え間ない政争、戦争、災害など事件がありました。私たちはこれらの渦の中でもプレることなく一貫した真心で障害を乗り越え、本日の供養会を挙行できることは、皆様の善い心の賜物と讃え感謝致します。

石破茂前首相の戦後80年の節目に、国民の皆様と考えたいという10月10日の所感『なぜ敗戦は必然だったのに、どうしてあの戦争を避けられなかったのか。

偏狭なナショナリズム、差別や排外主義は許してはならない。全ての基盤となるのは歴史に学ぶ姿勢だ。過去を直視する勇気と誠実さ、他者の主張にも謙虚に耳を傾ける寛容さを持った本来のリベラリズム、健全で強靭な民主主義が何よりも大切だ。』というメッセージは学び磨かれた善い心の鏡であり、その見識を評価します。

世界広しといえど、よい心の会という名の市民の会は何処にもありません。仙北市民と行政が一体となって育まれた尊い善い心の成果であります。

この成果は世界のため、韓日のため、平和と友好の礎として皆で育て、分け合わねばなりません。この尊い蓄みを善い心の皆様が守り育てて行かれることを念願、希求します。

最後に本日の慰霊祭開催にあたり田沢寺様、熊谷真一郎先生を始めとする

関係者の皆々様に感謝申し上げます。慰霊して下さった皆々様方の安寧と共に世界恒久平和の実現に向けて、力を尽くして下さる事を祈念し、私の挨拶と致します。

2025年11月24日

報告書(1950年－2025年)

田沢寺・田沢湖姫観音像

朝鮮人無縁仏追悼慰靈祭 経緯一覧

経緯

1950年(生保内小学校4年生)の時から田沢湖駅前にあった東源寺(現在は都市計画により生保内公園墓地に1984年移転)に戦前の生保内発電所工事に関わる朝鮮人の無縁墓があった。父母の言いつけて毎年その無縁仏に供物を備えたことから関りが始まる。

他にも東源寺境内の戊辰戦争犠牲者の無縁塚には他の朝鮮人無縁仏が合祀されていたことも判明する。移転前の東源寺にあった、これらの朝鮮人無縁仏遺骨は現在、公園墓地内の戊辰戦争犠牲者の無縁仏塚(柏山墓地無縁者の墓)に合祀されている。これらの事実は合祀に関わった田沢湖町で葬儀社を経営していた生保内中学校の先輩である毛江田真純氏から教わった。

1981年1月2日、生保内中学校の同期生が開いた42歳の厄除け祈願祭に招かれ出席したことで、その春に何一つ案内のなかった田沢湖姫観音を捜し訪ねた。その場所は雑草と雑木が生い茂り、道路からは姫観音の所在が判らぬほどに荒れ、放置されていたことに心を痛めた。

その敷地内に三基の石碑が建っていたが、その時は何の石碑なのか判読出来なかった。これらは犠牲者の慰靈碑ではないかと思い調査を始めたが、その行いが町の人々に届いたようで私が怪しい、好ましくない人物として風評が流れ始めた。

その秋、姫観音像建立の由来案内板が田沢湖町と差湖仏教会の名で建てられていたことに驚きと共に疑念を抱いた。

町当局が像建立地一帯を清掃したことで道路から姫観音像が見られるようになっていた。戦前に東北電力の工事現場監督であった先達の伊藤正吉氏が姫観音脇に角木の弔魂柱を建てられていた。これは慰靈碑であると理解していたところ、敷地内にあった石碑三基と弔魂柱がその後、跡形もなく取り

払われ何の痕跡も残さずに由来の案内板だけが新たに建てられたことに、町当局や溼湖仏教会の作為が私の疑心を呼び起こし調査の熱が高まることとなった。

記

1950年 田沢湖駅前にあった東源寺に戦前の生保内発電所工事に関わる朝鮮人の無縁墓があり、父母の言いつけで毎年その無縁仏に供物を備えたことから関わりが始まる

1985年4月20日 田沢湖観光協会の呼び掛けで田沢湖姫観音供養祭が初めて執行され、参席する。

田沢湖での自殺者の供養と観光のためと高橋福治田沢湖町観光課長より説明

1981年に田沢湖町によって建てられた姫観音像建立由来の案内板文面に疑問を持った。そこから真相究明の調査が始まる

1990年9月23日 朝鮮人無縁仏が埋葬されていると田沢村の伊藤幹夫氏証言により田沢寺墓地に『朝鮮人無縁仏慰靈碑』建立。その無縁仏遺骨は先々代菅原宗展住職の墓に合葬したと先代菅原美展住職より説明受ける

第1回朝鮮人無縁仏追悼慰靈祭執行

仏画全和鳳作『百濟觀音』『弥勒菩薩』2点寄贈

田沢寺奉安室にある朝鮮人無縁仏位牌に施主河正雄と書かれていたので施主となり供養を始めるしかし私の行為を強制連行や徴用などではなく、朝鮮人の犠牲者などはいないのに欺瞞と偽善の妄言作り話で、町の平安を乱す行為だと誹謗中傷を一斉に受けるようになる

1991年6月12日 田沢寺にて三度目の調査訪問で「姫観音像建立趣意書」を発見。その『付言』にて工事犠牲者の供養が明記されていた

1991年 韓国政府発表日本国厚生省の秋田県覚書官斡旋徴用者名簿「朝鮮人労務者に関する調査」にて先達発電所関係の実態確認

1991年8月13日 朝日新聞が全国版で報道

1991年9月22日 第2回姫観音並びに朝鮮人無縁仏追悼慰靈祭・田沢湖畔及び田沢寺（高橋福治氏から姫観音供養を依頼され引き受ける）

- 1994年5月18日 夏瀬ダム工事での生き証人・横須賀在住李用鎮氏の証言を得る
- 1993年8月11日 第3回姫観音並びに朝鮮人無縁仏追悼慰靈祭・田沢湖畔及び田沢寺
- 1994年11月1日 秋田県教職員組合発行「平和教育読み物資料集」に『姫観音』収録
- 1994年11月3日 第4回姫観音並びに朝鮮人無縁仏追悼慰靈祭・田沢湖畔及び田沢寺
- 1995年10月22日 第5回姫観音並びに朝鮮人無縁仏追悼慰靈祭・田沢湖畔及び田沢寺
- 1996年11月3日 第6回追悼慰靈祭・田沢寺田沢湖畔姫観音慰靈祭
- 1997年10月23日 第7回追悼慰靈祭・田沢寺田沢湖畔姫観音慰靈祭
- 1998年7月1日 『縁一朝鮮人無縁仏に捧げる』を出版
- 1998年11月18日 第8回朝鮮人無縁仏慰靈祭、田沢寺と田沢湖畔姫観音前
- 1999年3月2日～3月5日 韓国靈巖郡靈巖邑三湖里自宅にて先達発電所強制連行者発見
曹四鉱氏と面談証言を得る。秋田朝日テレビ伊藤玲子 DR と秋田県朝鮮人強制連行真相調査団事
務局長、野添憲治と共に
- 1999年6月23日 NHKラジオ深夜便出演『もう一つの強制連行』 インタビュー・増子有人ア
ナウンサー(午前1時15分～2時放送)
- 1999年7月19日 光州文化放送制作ドキュメント放送『時代の人物・河正雄の祖国愛』
- 1999年11月11日 10周年記念・第9回田沢寺朝鮮人無縁仏慰靈祭・よい心の碑建立
朴炳熙『平和の鳩』ブロンズレリーフ2点寄贈
墓地整理・全和鳳作『太陽と花』田沢寺に寄贈
- 2000年11月11日 秋田県田沢寺及び田沢湖畔姫観音法要、曹溪寺恵信師を始めとする韓国
僧侶150名訪問供養
- 2001年6月19日 秋田県田沢湖畔姫観音及び田沢寺朝鮮人無縁仏法要、韓国仏教会 120
名訪問供養
- 2002年2月 田沢寺にて韓国仏教会法要、100名
- 2004年10月2日 第10回田沢寺朝鮮人無縁仏追悼慰靈 15周年記念慰靈式
- 2008年4月11日 光州 KBS 制作『在日の花』河正雄ドキュメント放送
- 2015年10月12日 戦後70周年・日韓国交正常化50周年記念・第11回朝鮮人無縁仏追悼

慰靈祭・田沢寺姫観音供養会、田沢湖畔

田沢寺に四明張孝友作仏画 2 点を田沢寺に寄贈する

2019 年 5 月 23 日 田沢寺本堂桑原翠邦書『仏光普照』の掲額を修復して納品する

2019 年 11 月 10 日 第 12 回田沢寺朝鮮人無縁仏追悼慰靈祭、姫観音開眼 80 周年記念

(主催・田沢湖姫観音像開眼 80 周年実行委員会)

2020 年 11 月 10 日 田沢寺朝鮮人無縁仏追悼慰靈および姫観音法要・清掃奉仕(仙北市民有志)

2022 年～2025 年まで毎年奉仕活動

2021 年 10 月 28 日 ふるさとの碑・平和の群像建立寄贈除幕(田沢湖畔・御座石公園にて)

2025 年 8 月 13 日 秋田朝日テレビ『トレタテ！戦後 80 年河正雄さんインタビュー』神下芽衣 DR(午後 6 時 25 分～50 分放送)

2025 年 11 月 24 日 戦後80周年・日韓国交正常化60周年記念・第13回朝鮮人無縁仏追悼慰靈祭・田沢湖姫観音・よいこころの碑読経・献花

田沢寺本堂にて法要・慰靈祭(主催・朝鮮人無縁仏追悼慰靈祭実行委員会)

2025 年 12 月 25 日 これまでの経緯の所感

① 姫観音由来板を史実に基づく内容で書き換えること。理由は仏作って魂入れず、仏の教えに背く考え方から

② 地元有志が為されている姫観音、田沢寺の朝鮮人無縁仏供養や清掃が継続されることを念願し脱稿とする

2025年12月25日

第25回2025河正雄青年作家招待“光”展挨拶

昨年24回の“光”展に出席した際に「歳も85になり8年前の心臓大動脈手術のため身体も弱り、歩行も困難なので今年限りで光州への訪問は出来なくなるかもしれません。」と挨拶しました。

その時の受賞者の一人が「私はこの度、初めて河正雄先生とお会いすることが出来たが、来年からの受賞者は会えないというのは余りに寂しい。」と涙ながらに話されました。

そのことばが胸に刺さり、本日は心して出席せねばと光州に参りました。このように多くの皆様とまたお会い出来て嬉しく思います。

2025河正雄青年作家招待“光”展の開幕式にあたり御多用、寒気の中で河正雄賞を受賞する青年作家を祝賀し激励するために光州市民や国内各地からも多数、御列席下さり厚く御礼申し上げます。

第25回受賞者の大田市の姜哲奎氏、光州市の金ジイ氏。大邱市の蔣美氏、京畿道の崔智睦氏氏、おめでとうございます。受賞者の作品を河正雄美術館で展示、顕彰出来ますこと喜びです。

青年作家招待展開催の経緯を述べますと、私は1993年より7回に渡り光州市立美術館に美術作品を寄贈してきたのですが、1999年に光州市側から寄贈協約書作成にあたり、「何か市に要望することはないか。」と問われ、「私は美術家になる夢を抱いたが挫折した。発表する場と機会がない青年作家達にチャンスを与えて欲しい。」と答えました。

光州市はこの要望を聞き入れて下さり2001年から開催された河正雄青年作家招待“光”展は今年25回目を迎えました。これまでの韓国内と在日の受賞者は127人を数え、韓国や日本、そして世界に活躍の場を広げ頼もしい限りです。

光州市の英知が光となって世界を照らし、その光が光州に光り輝いて帰ってくるという希望に満ちた成果であります。

昨年の第24回“光”展からは社団法人光州市立美術館を愛する会の皆様が『河正雄賞』を制定し賞金を授与して下さったことは、青年作家達への力強い支援であります。

植民地時代そして光復後のあらゆる貧困を克服し、民主と人権の都市、芸術の都市を築き上げてこ

られた光州市民に愛され育てられ、助けられた思いがあります。

政治、経済、国際関係等の諸問題、新たなる貧困の問題に直面しております。心の貧困、誠心の貧困が気にかかるのです。

そんな折、自主的に光州市民が立ち上がり、青年作家達を育て光州の『文化資本』を豊かにされることは、光州のみならず韓国の文化向上に寄与するメセナ活動です。これまで孤独ではありましたが前途に光と希望が見えて、気持ちが軽くなりました。皆様の奉仕に感謝と敬意を表します。

私は光州の“光”を誇りとして、世界に飛躍する芸術家に夢と希望を抱くことを、皆様と共有することが出来る世界を幸せに思います。

種を蒔き、育て、花が咲き、果実がなるまでには多くの支援と努力、研鑽が求められます。私たちは世のため人のために、惜しみなく力を合わせ、民主平和、文化国家を築く一層の努力をしていきましょう。

これまで光州広域市、光州市立美術館が青年作家達に物心両面の慈愛を注ぎ、“光”展を発展させ、歴史と伝統を築かれてきたことに感謝と敬意を表します。

前途に光り輝く光州の栄光と、市民の皆々様の幸福を祈念して私の挨拶とさせていただきます。

2025年11月18日



光州市立美術館 河正雄美術館

2025 霊岩王仁文化祝祭『王仁賞』を受けて

—韓国で報道された『王仁賞』選定—

2025年3月12日韓国で発表された各社新聞記事の要約である。

『全羅南道靈岩郡は3月12日、「2025 王仁文化祝祭」の象徴として『王仁』に東江河正雄氏を選定したと発表した。また、今年から初めて新設される王仁陶芸家に姜錫永氏が選ばれた。

靈岩郡は毎年、韓国または靈岩郡の発展に貢献した人物、後学養成に貢献した人物、郡守が公益的に地域社会的に適合性を考慮し『王仁』を選定している。

靈岩郡は、王仁や各分野の専門家が日本に渡って様々な先進的な文化財を伝えた内容を正しく広めるため、今年から王仁だけでなく陶芸家、金属工芸家、文学・芸術家、科学者などの分野別専門家を各1名ずつ選定できるように拡大した。

住所地も靈岩郡に限定せず、大韓民国国民であれば可能なように改定され、『王仁』の賞などを拡大格上げし王仁選考に関する規定を改定した。

西暦405年に日本に渡り、百濟時代の様々な先進的文化財を日本に伝え、K-カルチャーの原点から27甲周(1620年)になる今年、資格要件が大幅に拡大された。規定改正により、1番目の「王仁」に選ばれた東江河正雄は在日韓国人事業家である。

靈岩郡立河正雄美術館の主役でもある東江河正雄は、日韓両国の国・公立博物館と美術館に1万余点の美術品を寄贈し、世界的な文化支援事業家として大きな模範となり、2012年に大韓民国宝冠文化勲章を受章した。

河氏は東京王仁ライオンズクラブ会長を歴任、1999年に靈岩郡第一広報顧問官、2007年に靈岩郡広報大使に任命され、日韓両国の文化交流に大きく貢献し王仁博士の互恵・共生精神の模範となり、2025年王仁文化祭を迎える『王仁』として選ばれた。

王仁と王仁陶芸家に選ばれた東江河氏と姜氏は、2025年王仁文化祝祭の開会式で靈岩郡民の名で賞を授与され、王仁文化祭など国内外行事に参加し、王仁博士の功績を広く普及させると期待される。

今年の王仁文化祝祭は「偉大な航海(The Greatest Voyage)」をテーマに、郡西面の王仁博士遺跡地と鳩林村で開催される。』

※2025 霊岩王仁文化祝祭行事は靈岩郡での口蹄疫流行と 6 月 3 日の大統領選挙のため、中止となる。

—崔子玉座右の銘—

前年までの選定規約を変更しての日本居住の在日 2 世河正雄が選定されたことに大きな驚きもあったが、今年の祝祭行事は『偉大な航海』をテーマに開催されると知り、選定された喜びが増した。

しかし崔子玉(名は環)の座右の銘にある「人の短所を謗ってはいけないし、自分の長所を誇ってもいけない。恩を施したときは忘れるよう努め、恩を受けた時は忘れてはいけない。世間の名誉は慕うに足りない。ただ徳こそ守り続けねばならぬ。じっくり考えた後に行動を起こし、悪口など気にしない。実質以上の評価を受けないように。具を貫くことは聖人の認められるところである。黒く染められても黒くならない事こそ尊い。言葉を慎み飲食を節し、足るを知って災いに勝て。以上のことを行っていれば、いつまでも香しく薰り続けるであろう。」という教えが甦り身が震えた。

—再検証・再評価—

私が住む日本の関東や関西地方には百済川、百済郡、百済寺、高麗郡、高麗神社など韓国との縁と歴史的背景を示す地名、寺社、遺跡がいたるところで目に留まる。

これらには古代における韓国との関係史が多く証言、記録されていることを教えている。韓日古代史は皇国史觀、植民地史觀など時の御用学者たちによる史觀に基づくものが少なからず、現在の通説となっている。しかし、これらの遺物や遺跡の中には貴重な歴史的事実が秘蔵されロマンがある。

一部の史家らは王仁の伝承史実を後世の創作と退ける傾向がある。古事記(712 年)や日本書紀(720 年)で口承説話をも混じりにまとめられているので、誤りやおかしな点も少なからず記録されているからだと思う。

史実の齟齬を取り上げて日本と韓半島の歴史から史実を退ける傾向が日本の戦後社会にある。これは非常に困難な問題であり、韓日国交正常化 60 周年を記念して温故知新、歴史を回顧し王仁博士の

遺徳を顕彰する意義深い年になるよう改めて再顕彰、再評価すべきであると考える。

—聖域化事業の成果—

1985 年 8 月、金玉鉢郡守から王仁史跡案内を受け、王仁博士遺蹟地復元計画図面を示された。靈岩郡沿革と現況報告書類、それまでの写真資料などで説明を受けた。そして在日同胞たちの協力と支援を要請され、応諾した。

失われた民族の主体意識を回復し、歪められた韓日関係の古代史を是正するためにも、栄誉ある使命感を抱いて王仁博士の研究、顕彰に精進し、その生誕地を聖域化する事業に寄与出来ることは栄誉である。

1987 年、念願かなって靈岩に王仁廟が竣工し学而門、紅箭門、百濟門、養士斎、遺跡展示館が建立された。

私は 1991 年より靈岩王仁廟参道や周辺などに桜植樹を始めた。最初は植樹を受け入れなかつたが「桜が何か悪いことでもしたのか。桜が咲くと美しく思わないのか。春の喜びを世界の人達と共に共有しよう。」と訴え、理解を得た。以下は植樹経過である。

- ① 王仁廟 1991.10.16 桜苗木 200 本(染井吉野・佐倉産)・東京王仁ライオンズクラブと共に
- ② 王仁廟 1996.4.5 櫻苗木 200 本 日本ケヤキ会と共に
- ③ 王仁廟 2006.4.8 角館枝垂桜苗木 20 本
- ④ 王仁廟 2006.11.20 角館枝垂桜苗木 20 本(③+④計 40 本 2023.3 現在生木 14 本)
- ⑤ 灵岩郡立河正雄美術館 2009.11.20 角館枝垂桜苗木 30 本(2023.3 現在生木無し)仁川税関で検疫廃棄処分される
- ⑥ 灵岩郡立河正雄美術館・上台浦 2009.12.12 角館枝垂桜苗木 30 本植樹(2023.3 現在生木 14 本)
- ⑦ 道岬寺 2012.3.30 角館枝垂桜苗木 3 本(2023.3 現在生木 2 本)

2008 年には王仁廟に千人千文字碑が建立された。千文字は一千字の異なった文字による四言二百五十句の詩文で、宇宙の哲理と人倫の大道を歌ったもので、人類の未来に勇気と希望を与える、悠久不変の哲理を説いたものである。私はその碑に『魄』の文字を揮毫した。2010 年には第 20 回王仁

博士春享祭に於いて初献官の任を果たした。

—『博士王仁まつり』靈岩郡訪問団歓迎式典での挨拶—

本日は午後 1 時から第 35 回四天王寺ワッソ・なにわの宮ステージ2025『古代の交流から学ぶもの・友情は 1400 年の彼方から』オープニング式典に、今夜は大阪日韓親善協会主催の第42回『博士王仁まつり』靈岩郡訪問団前夜祭歓迎式典、明日 3 日には枚方・王仁塚での博士王仁まつり式典にお招き下さり、皆々様との出会いを嬉しく思います。

私は今年の春、2025靈岩王仁文化祭で靈岩郡が選定する『王仁賞』を受けました在日二世の河正雄と申します。

賞の規定に住所地を靈岩郡に限定せず大韓民国国民であれば良いとの資格条件を大幅に改定しての受賞がありました。門戸を世界に開いた靈岩郡の英知であります。

選定要件の一つに国または靈岩郡の発展に貢献した人物とあり、何よりも私は恵まれ選ばれた幸運に感謝しております。

私は1999年に靈岩郡広報大使に任命され、これまで韓日間で働かせて頂いたことは喜びで誇りであります。

また選定された人は王仁博士の広報と顕彰に努めなければならないという要件もあって、この度の祝祭行事に参加出来ましたことは幸いです。

何卒、王仁博士同様愛して下さいますようお願い致します。

1939年、私が生まれた地は布施森河内で現在の東大阪市、JR 片町線の放出(はなてん)駅に近いところであります。

枚方市地元有志によるボランティアグループ『王仁塚の環境を守る会』が発足したのは1985年のことです。1938年指定の大坂市史跡『伝王仁墓』を荒廃から守るための市民の良心の発露を麗しく思います。

1994年、私は守る会の会員であった地元の写真家吉留一夫氏との出会いから王仁塚と御縁を結びました。

1998年には史跡指定60周年を記念して、その時会長の任にあった東京王仁ライオンズクラブと宝

塚王仁ライオンズクラブと共にムクゲを記念植樹しました。

2006年には社団法人韓日文化親善協会の創立30周年記念事業として百済門建立に寄与出来たことを喜びとしております。

私は1974年に父母と共に故郷靈岩を訪問したのが王仁博士との御縁の始まりになります。

1975年、許練全羅南道知事が靈岩の王仁博士生誕地の聖域化を発表したことで王仁博士の存在を知ることとなりました。

1976年には靈岩の鳩林里一帯が全羅南道記念物第20号に指定され、同年社団法人王仁博士顕彰会が『百済王仁博士遺墟碑』を建立、その式典に出席したのが私の顕彰事業の始まりです。

1987年、王仁廟が竣工し淨化記念碑の寄贈建立、2006年には『神仙太極庭苑』が日本ガルテン協会により寄贈建立され、私が育った秋田角館の枝垂桜、佐倉の染井吉野桜など春の祭典に相応しい桜の植樹事業を進めました。そして靈岩王仁文化祭の開催となり韓日文化交流に寄与出来ましたこと幸いでした。

神仙太極庭苑の石碑文を紹介します。

『王仁文化祭りの10周年を記念して、古代先進文物を日本にもたらし燐爛たる飛鳥文化の花を咲かせた王仁博士の賢徳と偉業に敬意を表し、感謝と報恩の意味で、「日本国指定天然記念物角館枝垂桜」20本を植樹し、韓日共存を象徴する青竜黄竜の「神仙太極庭苑」を作庭する。よって王仁博士を顕彰し、平和を願い、悠久な韓日友好交流を祈念する。企画推進 河正雄』

東京の恩賜上野公園には、私が生まれた翌年の1940年『博士王仁の碑』の正碑と副碑が王仁顕彰会により建立されました。

私は1955年秋田の中学校の修学旅行で上野公園の西郷隆盛像を見学しましたが、すぐ傍に建っていた王仁博士の碑は、存在も知識も持たなかった当時の私は気付くことが出来ませんでした。

1974年の靈岩訪問後に金昌洙先生より頂いた『博士王仁』著に学び、王仁博士の存在を深く知り碑を捜し当てました。碑の周囲は雑木と雑草が生い茂り管理が行き届いていない、見捨てられているかのような惨めな状況がありました。

2016年、私は社団法人韓日文化親善協会の事業として正碑と副碑の脇に王仁博士青銅刻画碑を建立する事業に関わり尽力致しました。一帯を整理し、面目を一新したことで上野公園が明るくなり王

仁博士の復光を喜ばれています。

王仁博士への敬愛と遺徳を偲ぶ報恩の営みは、韓日の歴史と文化を継承し、永遠に友好親善交流の花が咲き誇りますことを祈念して、挨拶とさせて頂きます。

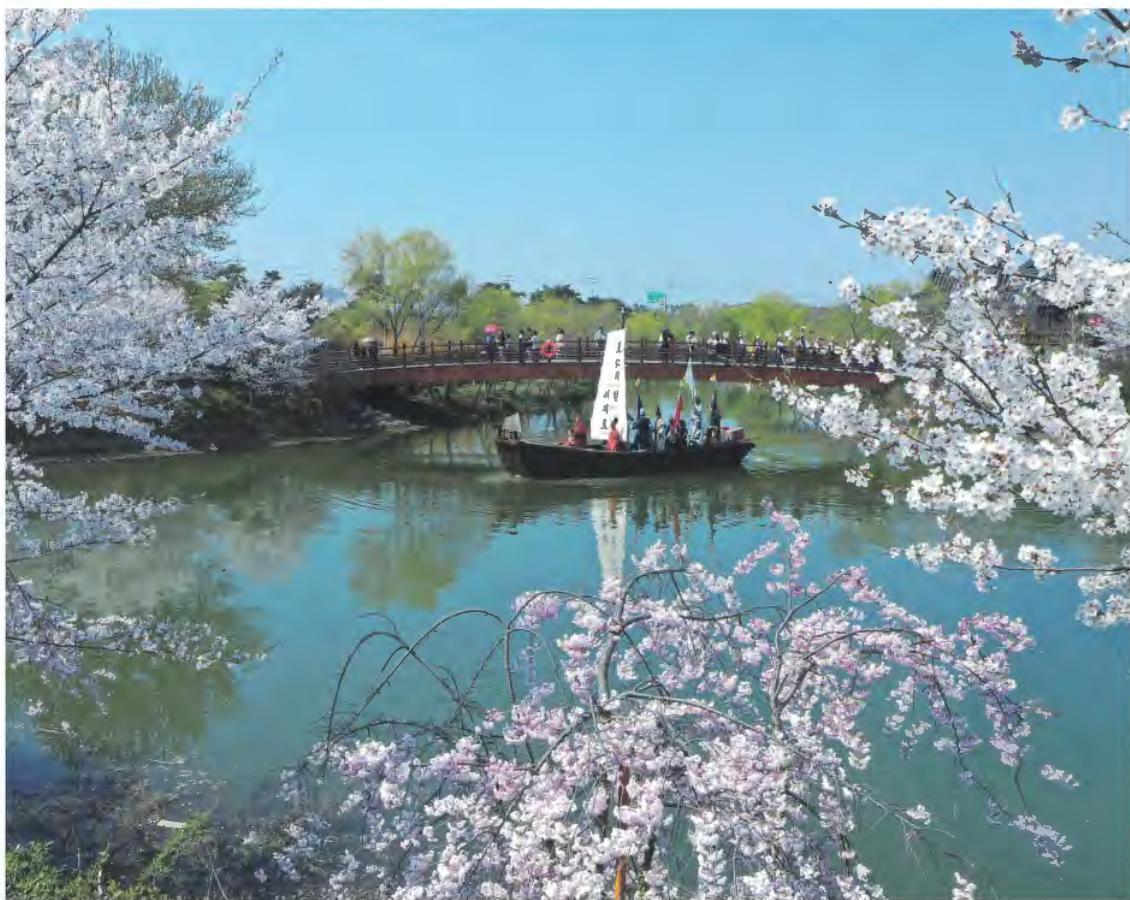
2025年11月2日 大阪市道頓堀ホテルにて

—終わりに—

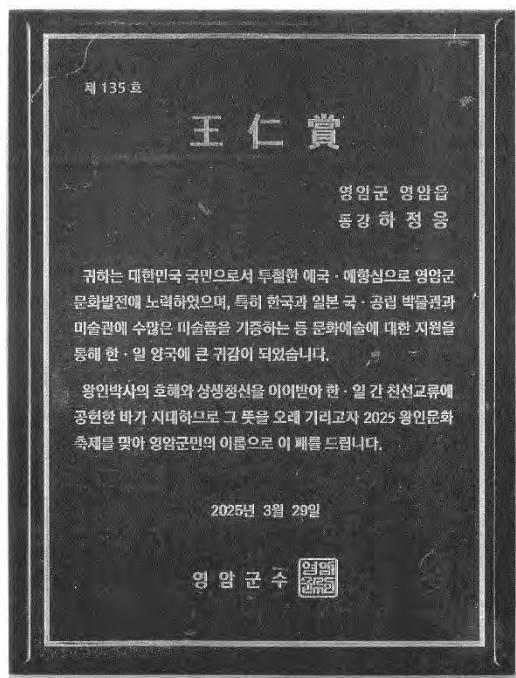
1974 年、父母が 46 年ぶりの故郷靈岩への帰郷を共にして以来、51 年になる。父は 1975 年、母は 2011 年に旅立ったが私は祖国と父母の故郷を往来し、これまで王仁博士への報恩の旅が出来たことは至福の喜び、感謝の極みである。

王仁博士の遺徳は永遠なる遺産であり誇りである。王仁博士への報恩を忘れず顕彰することは今を生きる人々の命題である。

2025年11月3日



王仁博士が日本に旅立った靈岩の上台浦（港）の風景・角館枝垂桜が咲き誇っている



王仁賞牌（上）と副賞王仁像・テラコッタ

光州広域市視覚障碍者連合会『東江・河正雄賞』授与式祝辞・激励辞

第46回2025光州広域市視覚障碍人記念大会に御招待を受け、祝辞、激励辞を述べる光栄と感謝碑までいただき感謝に堪えません。

菊の花薫る青丘朝の国、韓国の秋の空は深く澄んで麗しい限りです。この善き日の平安を心より慶祝致します。

光州広域市視覚障碍者連合会との御縁を結び43年になりますが、皆々様と人生の半分を共にした幸せな日々でした。

1982年光州で黄英雄氏に出会い「光州に盲人協会と会館が欲しい。」との願いを聞きました。

私はヘレン・ケラーから三重苦の障害を持ちながら、自分より苦しんでいる国境を、民族を越えて勇気づける博愛の精神を学びました。

当時私は在日二世の貧しく幼い子供でありましたが、ヘレン・ケラーのように、世のため人のために尽くしたいと心に憧れていますので、これも御縁であると思いました。

当時、韓国は国も市民も福祉に手が届かない、関心のない国情がありました。在日の私を頼りにした黄英雄氏は、結果的には人を見る目があった人と言えます。そして私の存在を認めた韓国の友人の一人であります。

私は黄英雄氏からの願いと要請を全て聞き届け、協力支援をして来たのはヘレン・ケラーの教えと社会貢献への義務感と共に、私が認められ選ばれたのだという自負からです。

協会が設立され、会館が出来るまでは艱難辛苦という言葉ではとても足りない試練の連続でした。連合会の皆様方は私を信頼する黄英雄氏を支え、団結して私と心を合わせ努力してこられた成果であると述べたいと思います。

地域の支える人々と障碍者同士の心を合わせて助け合い、今日の成果に繋がったのです。皆様の献身と努力に感謝と敬愛の意を表します。

これまで挨拶の中で、また講演の中でも語りましたが、皆様は『この世は障碍者だから助けてくれる、

依頼すれば思う通りになる甘いものではない』ということを、身を以て学習したと思います。

共に力を合わせ、助け合い団結する。自主独立、共助が基本です。経験から学んだもの、得た知恵は全てが貴重な資本、資源あります。これらを社会に還元し、皆様一人一人がリーダーとなって豊かな福祉社会の担い手となって輝いていただきたい。

この度、光州市視覚障碍者連合会が福祉社会発展に寄与貢献した市民を顕彰する『河正雄賞』を制定されたことは、組織として更に成長した姿を見ることは頗もしく、嬉しい限りです。

黄英雄氏が亡くなる数年前のことです。私の傍に寄って、私のポケットに何かを入れようとするので「何ですか」と尋ねると、これを旅費に使って欲しいと現金の入った袋を渡そうとしたのです。

二度「受け取れない。」と断りましたが、三度目に「私の息子は本当に良い子に育ちました。息子のおかげで生活も余裕が出来て今は幸せです。私の喜びと報恩の心を 受け取って下さい。」と言われました。受け取った袋には50万ウォンが入っており、お金としてではなく、彼の感謝と喜びを共にしようと彼の心を受け取ることとしました。

その翌年、黄英雄氏は亡くなりました。彼の心の純真は私が友人の一人と呼ぶ由縁であり、光州市視覚障碍者連合会の礎となりました。

43年前に出会い亡くなられた韓国の尊い友人、黄英雄氏に第1号『東江・河正雄賞』を授与する栄誉を下さった連合会の粋な計らいに感謝致します。美しい温もりある報恩の花です。社会全体を支える民主人権福祉都市、文化芸術都市である光州の発展具現を念願して止みません。

一層の自主自立の精神を高め一致団結、和合し英知を集めて世のため、人のためになる務めを果たされますよう、矜持を以て社会のリーダーとなられますよう祈念して止みません。

故黄英雄氏の友情に感謝し、追悼の誠を捧げます。地域に関わる問題に光州市民の一層の支援と関心を寄せ、『東江・河正雄賞』を育て発展させて下さることを切望します。

皆々様の平安と御健康、御幸福を祈念して祝辞、激励辞と致します。

2025年10月28日



東江・河正雄賞授与式で祝辞 (2025. 10. 28)

浅川兄弟顕彰碑『碑閣・露山閣』お披露目式祝辞

浅川伯教・巧兄弟顕彰碑の韓国伝統的構造物『碑閣・露山閣』お披露目建立除幕式を心よりお祝い申し上げます。浅川兄弟を顕彰し、兄弟への感謝と敬愛を一層高める高貴な御心の露堂堂たる表れそのものです。得られる成果は誇らしく頗もしく、喜ばしい限りです。

2023年6月25日のことです。川口市の自宅で私は韓国ソウルの『月刊韓屋』誌社長である朴敬澈(パク・キョンチョル)氏のインタビューを受けました。

朴社長は私の父母の故郷である靈岩に残っている古の民家などを紹介するため靈岩を訪問した際に、鳩林里(クリムマウル)の靈岩郡立河正雄美術館を取材、私への関心を持たれたと話され古来よりある韓国式の、地に両手をついて拝礼するクンチョルで挨拶を受け、私は狼狽えました。初対面の方から韓国伝統の挨拶を受けたことは、昔失ったもの、忘れ去ったものが甦る感覚もあり、新鮮に思え嬉しくなりました。

朴社長は同年10月27日、再度自宅を訪ねられインタビュー記事が掲載された『月刊韓屋37号』を持参され、またクンチョルで伝達され恐縮の至りでした。

私は「編集、デザイン、記事も国際的水準のセンスがある。」と感想を述べました。朴社長は「海外で認められるような本を創っている。」と信念を述べられ、韓国の出版界も一流になったと私は喜びました。

朴社長が次号は柳宗悦の特集号を企画していると話されたので、私は浅川伯教・巧兄弟が柳宗悦の民芸運動について先駆的な影響を与えたことを話し、先に北杜市の浅川兄弟資料館を訪ね学んで欲しいと薦めました。朴社長は即座に資料館を訪ねられ、またその足で川口の自宅を再訪されました。

「人は死ねば忘れ去られる。数十年も忘れ去られた浅川兄弟を日韓両国民が復活させた成果を知り熱くなりました。資料館の設立経緯や、地元と韓国双方の人々の友好交流事業に感動しました。日韓両国で浅川兄弟が敬愛されている顕彰碑に、1人の韓国人として感謝と敬意を込めて碑閣を寄贈建立したい。」と申し出られ、事の急展開に私は再度狼狽えました。その律儀で真摯な心の発露に私も血の滾りを感じ、感動を共有致しました。

こうして朴社長は1年に渡り北杜市教育委員会と話し合いを進め、海を越え山を越え打ち合わせの

ために数度に渡り北杜市を訪問されました。一步また一步と歩まれ具現化され本日、お披露目の喜びとなりました。

「碑閣・露山閣」は韓国国家無形文化財保有者大木匠(テュモッチャン)李廣福(イ・カンボッ)

氏のデザイン、設計により韓国で製作され、現場で組み立て建立されたものです。木材の乾燥後、韓国固有の伝統的色彩である『丹彩(タンチヨ)』が施されます。周囲の自然に映える美しさ、高貴さは例えようがありません。

ここに至る艱難辛苦、関わった私としては無私利他の奉仕精神、情熱と推進力を以てプレることなく成し遂げられ感服しております。その献身に感謝と報恩の鏡と讀えたいと思います。

この度の慶事は今年の日韓国交正常化 60 周年に相応しい意義深い行事となりました。「碑閣・露山閣」建立と寄贈の承認して下さった北杜市の裁量、またあらゆる難関を越えて成し遂げられた関係者皆々様の真心と、誠心誠意の奉仕精神に敬意と感謝を申し上げます。

『碑閣・露山閣』が浅川兄弟の国際親善の光を輝かせ、日韓友好交流の真心が実っていくことを永遠に祈念し祝辞と致します。

2025年10月28日



安部哲男先生瑞宝双光章受章記念祝賀会祝辞

昨日(2025年8月23日)、李在明大統領が就任されてから初めて訪日されました。今朝の新聞を読むとアメリカのトランプ大統領との初会談に先立ち、日本訪問されることは異例であると報道されました。

実は本日の石破総理との日韓首脳会談の前に帝国ホテルにて200名の在日同胞が招待され午餐会が開かれました。

その席で「在日同胞の祖国発展に対する寄与貢献を評価し感謝する。」という挨拶がありました。苦労された方なので、何が大事なのかが判る大統領の人柄に感動しました。

その感動のままに本日のお祝いの席に着きました。今だ興奮状態であることを御理解下さい。

安部哲男君、令和7年春の叙勲瑞宝双光章受章おめでとうございます。

安部哲男君は小学生からの同級生で70数年来の友人です。本日は多くの友人を代表してお祝いの言葉を述べるにあたり、これまで数々の祝辞を述べる榮誉に預かることはありましたが、これほどの喜びと光栄はありません。

太田南小学校、母校の生保内小学校校長を歴任され、退職後に仙北市教育委員会委員、教育委員長として仙北市の教育行政に貢献され、その功績による叙勲と広報で知りました。私は我が誇りのように万歳と心で唱えました。

平成3年(1991年)、母校の生保内小学校に赴任された報せを聞いて母校を表敬訪問し、祝意を述べました。校長の奥田敦夫先生が「安部先生の働きのおかげで助かっている。」と様々な事例を話し評価される嬉しい言葉を聞いて、安部先生は認めてくれる上司に恵まれ幸せだと思いました。今日の喜びを予感させる出会いがありました。以来、両先生からは御厚誼を頂いており幸せです。心より感謝しております。

私は奥田先生との出会いと友の出世、その日の出会いの感動を母校への報恩の気持ちを込めて、記念のブロンズ像『陽だまりの像』を校庭に寄贈致しました。

児童代表の武藤真以子さんから「像は毎日健やかに優しい子に育ってほしいと語りかけてきます。」と

感謝の言葉をいただきました。その声は今も続いて児童から届いており、感動をいつも新たにしております。

安部哲男君は自分の光を世に人に惜しみなく与えた善い友人です。光を受けた人々が感謝を込めて光を送り返し、彼を輝かせた賜物であります。

善いことをするにも気を使う時代です。所用で御自宅に電話を掛けた時、「玄関に児童が来ているので」とか「これから図書館で児童たちに教えるので」とか「児童や父兄から相談があるから」などと言われ私の所用は何度も後回しになったことがあります。公私なく教え子のために惜しまず注ぐ、真の教育者の姿を見る思いがしました。

2016年から始められた田沢湖歴史再発見塾は過去を振り返り、先人たちの営みと業績を纏め残されることは、地域の発展と後輩たちへの偉大な贈り物であります。卓越した先駆性と実践力を高く評価します。私たちの誇りです。

善いことをするのに憚るな、
善いことは皆で力を合わせ分け与えと励ます。その励ましは
自分への励ましでもあったこと
でしょう。

教育は人を作り、世を作る
と言います。これまで50有余年、教育界と地域で施した光
が人を作り、世を輝かしたと思
います。

安部哲男君の光を人も世もまだ必要としております。惜しみなく陰日向なく温かく分け与えて下さるよう祈念して、私の祝辞といたします。



安部哲男先生家族と共に(2025.8.24 仙北市角館町グランデールガーデン)

2025年8月24日

韓国文化院『再び描かれた世界 2025』展祝辞

韓日正常化 60 周年記念展『再び描かれた世界 2025』開幕式に御招待下さり感謝申し上げ、祝辞を述べることを光栄に思います。

本展は韓国画のテーマ『材料』『技法』の拡張の可能性を探求し、日本という外部の視線を通して『伝統と現代』『断絶と連続』という二重の背景にスポットを当てたと案内を受けました。

韓国文化院が1979年に創設され、1980年代以降に行われた韓国画家の展覧会は私の記憶だけでも十数回あります。その展覧会を通じ韓国画の伝統と現状、作家との交流、コレクションへと進む経緯があります。

元は朝鮮画が共通の呼び名でしたが、当時は東洋画とも呼ばれ、韓国美術の主体を牽引していたのは韓国画の世界でした。洋画壇の進出により、その後は日本画壇の衰退と同じくして韓国画の認知や評価が衰退していく韓日美術界の世流を私は嘆いておりました。

現在、洋画壇の交流は展覧会など活発に行われるようになって、世界が共に刺激しあい、情報の交流が密接になっております。

從来、漢字圏の東洋で開いた山水画、文人画、仏画、水墨画などで、共通する世界感を広め、国や民族を越えた新しい美術世界を創出してきたと、私は認識しておりました。この度の記念展は遅れたとはいえ『温故知新』故きを温べて新しきを知る時機を得た展覧会であると思います。

この度、中国や日本でも世界的に著名なる秋史の作品などと出会い、漢民族の文芸の高貴さと、品格に触れることを喜び、そして新しきを知り変化していく活気ある力となるよう再解釈したいと思います。

主催者の韓国文化院、一民美術館の企画に敬意を表し感謝申し上げます。

2025年 8月 8日

再び描かれた世界 2025
2025年8月8日(金)–10月21日(土)
駐日韓国文化院 ギャラリーMI

『再び描かれた世界 2025』は韓国文正 normalization の周年を迎える、一民美術館(ソウル)、駐日韓国文化院、駐大阪韓国文化院が共に開催する展示です。2025年にソウルで開かれた『再び描かれた世界・韓国画の断絶と連続』を出発点とし、韓国画のテーマ、材料、技法の拡張可能性を探求し、日本という外部の視線を通して「伝統と現代」「断絶と連続」という二重の背景にスポットを当てます。美術館所蔵作家である謙齋鄭徵(キヨムジュチョン・ソン)、秋史金正喜(チュサキム・ジョンヒ)など歴史的な巨匠を紹介する一方、2000年代以降に顕角を現した若い作家たちの作品を併置し、過去を現在の視点で再構成します。これは、伝統を停滞した遺産ではなく、絶えず変化する活気あふれる力として再解釈しようとする試みでもあります。

主催・主管 駐日韓国文化院、駐大阪韓国文化院、
 一民美術館(ソウル)
後援 韓国文化体育観光部、韓国国際文化交流振興院、
 韓国文化芸術委員会

参加作家 パク・グリム、ペ・ジエミン、ソン・ドンヒョン、
 チョン・ヘナ、チエ・ペリ

所蔵品 謙齋鄭徵(キヨムジュチョン・ソン)、
 秋史金正喜(チュサキム・ジョンヒ)、
 吾園張承業(オウォンチャン・スンオプ)、
 心田安中植(シムジョンアン・ジュンシク)、
 以堂金殷鶴(イダンキム・ウノ)、
 鼎齋崔禹錫(チョンジュチエ・ウソク)、
 小亭卞實植(ソジョンビョン・グァンシク)、
 月田張遇聖(ウォルジョンチャン・ウソン)、
 藍丁朴魯壽(ナムジョンパク・ノス)、
 山丁徐世鉉(サンジョンソ・セオク)



秋史金正喜チュサキム・ジョンヒ、『四時墨竹図四幅屏』
 2018年、紙に墨、四曲屏風、106.5×105cm



チエ・ペリ、『蓮の角』
 2022、絹にカラーおよび墨、顔料、彩色木材、245×110cm

「再び描かれた世界 2025」展チラシ

青木繁「海の幸」記念館開館 10 周年記念祝辞

青木繁記念館開館 10 周年を祝賀申し上げます

思えば私の青木繁画伯との出会いは、1970 年代、在日一世画家全和鳳(ぜん・わこう/チョン・ファファン)画伯の画集発刊の準備のために、美術評論を依頼するためにブリジストン美術館(現アーティゾン美術館)館長嘉門康雄(かもん・やすお)先生を訪問した時に遡ります

その際に、嘉門先生ご自身が館内を案内され、青木繁の『海の幸』を紹介され、さらに、安房遺産フォーラムの愛沢伸雄(あいざわ・のぶお)先生と池田恵美子(いけだ・えみこ)さんから、その絵を制作された所が館山の小谷家であったことを伝えられました

2005年に私の高校時代からの友人で秋田市内高校絵画連盟で副会長をつとめ、現在は館山に住む富樫健二(とがし・けんじ)君から、そのお二人を御紹介いただいた事が御縁となり、館山の皆様と交流が始まり、2015 年に小谷家を訪れ、青木繁の足跡を知る事となりました事も、なにかのご縁であったと思います

その訪問時に、『海の幸』作品を原寸大レリーフにして制作されていた、彫刻家の船田正廣(ふなだ・まさひろ)先生を紹介頂き、そのブロンズ作品が、私に初めてブリジストン美術館で作品を見た感動を甦らせ、海の恵みと労働の喜び、感謝、祈りの芸術の美を再認識する機会を与えてくれました

私は即時に船田先生へ、日本における2か所（久留米の青木繁の生家、布良(めら)の小谷家の庭)韓国において私が関連する3か所(韓国ソウルの秀林文化財団、光州市立美術館分館河正雄美術館、靈岩郡立河正雄美術館)の計5か所に寄贈設置する為のブロンズ作品復刻を願い、『海の幸』の美の世界が両国の懸け橋になりますよう祈念しました。

2016 年それぞれの地に希望通りに設置出来ましたことは、2022 年にお亡くなりになり、天上におられる船田先生の英断のおかげで、感謝に堪えません

今年は韓日修好 60 周年の記念すべき年であります。『海の幸』の美が繋ぐ韓日友好親善交流は、こうして 10 周年を迎えることになり幸いなることと喜んでおります

時は流れ、過ぎ去っていった人々の営みの数々、それらの御縁が結び紡がれていくことは大きな喜びです。この御縁を大切にし、永遠に繋がり深め合いますことを祈念します

最後に青木繁記念館の発展が、次の時代へと繋ぐ希望となりますことを祈り、私の祝辞と致します

2025年5月24日



青木繁「海の幸」記念館開館10周年記念祝賀会（2025.5.24）

絆と連帯・松田解子 2025 国際シンポジウムによせて

松田解子の長女橋場史子(1945年-2020年)さんから、なかの芸術小劇場にての松田解子没後15周年記念金正勲講演会『韓国から考える松田解子』の案内が届いた。母解子を想う子の情愛と孝道が伝わる案内であった。

橋場史子さんは2017年の光州訪問時の感動を数々遺して、転移性乳がんと闘い案内の翌年に旅立たれたことは哀惜の念に堪えない。

2019年11月29日、私は所用のため、講演会には出席できなかったが、「金正勲を囲む懇親会」に遅れて出席した。

「講演者の日本語が大変上手でヒューマニズムな内容に感動した」と出席者らが一様に感謝し喜ばれていた。私まで歓迎されているかのようで嬉しかった。

秋田県荒川鉱山墓地にある松田解子の墓には解子の詩「春咲け 夏照れ 秋成れ冬澄め わがふるさとよ 祖國よ」の碑が立っている。故郷秋田を同じくする在日の私は、祖国への愛から松田解子の詩に格別なる想いを寄せていた。

1998年、私は高校時代、大館の大館大火(1956年8月)の見舞いに行って以来、42年ぶりに茶谷十六先生の案内で大館花岡を訪ねた。花岡事件中国人殉難者慰靈祭に出席する為であった。

その日お会いした花岡の地・日中不再戦友好神をまもる会の富樫康雄先生から、詩画集『花岡ものがたり』(1951年出版)を記念にいただいた。57枚連作の詩画集の中に「たたかった朝鮮のひとがた」「朝鮮人」という作品が収録されていた。

そこで初めて信正寺に七ツ館弔魂碑(1947年建立)の所在と、花岡鉱山で朝鮮人犠牲者があった事を知ることになった。碑に22名の殉難者名が刻まれ、朝鮮人11名については『創氏改名』法により日本名のまま刻まれていた。

詩画集『花岡ものがたり』は物語詩と木版画にはフィクション部分が見受けられたが、戦時中、非人間的扱いを受けた中国、朝鮮俘虜人を慰安する鎮魂歌であった。戦争に対する告発、そして人間の尊厳

のために勇敢に闘った人間勝利の物語である。

花岡事件は中国人強制連行と虐待の事件と知られていたが、七ツ館事件については外され慰靈祭が行われており殆ど知られていなかったのである。「靈まで差別される慰靈祭は道理が合わない」と私は富樫、茶谷両先生に不条理を訴えた。

1964 年から私は在日美術家が描いた絵の収集を始めた。第 2 次世界大戦中、戦争遂行の為に強制的に動員され、殉難した朝鮮人の靈を慰める、田沢湖畔に『祈りの美術館』を建立するためだった。

1951 年に出版された「花岡ものがたり」は、人類の記憶遺産として残された貴重な作品である。富樫先生に韓国で起きた忌まわしい光州民主抗争事件について説明し、作品を光州市立美術館河正雄コレクションとして収蔵したい、そして公開したいと寄贈を申し入れたが原木版の行方が判らないという。

幸いにも 2000 年に茨城県下館市の版画制作者の 1 人である新居広治(にいひろはる)氏によって保管されていたことが判った。

作品は富樫先生らの尽力で 2001 年 9 月に寄贈を受け、韓国語と英語の訳詩を付け 2004 年光州市立美術館にて「人類の遺産木刻連作版画 花岡ものがたり展」(会期 5 月 11 日~8 月 25 日)を 3・1 独立運動 100 年を記念して「河正雄コレクション展」として開催された。

物語詩は秋田の方言で綴られていたので韓国語と英語での翻訳作業は一筋縄ではいかなかったが、幼少から青年期まで秋田で育った私には楽しい作業であった。

趣旨は、秋田県を中心に、強制動員・強制労働の犠牲となった朝鮮人の真相究明と人権の回復、鎮魂の過程を盛り込んだ作品・史料を展示して、「人類に歴史教訓と平和のメッセージを伝える」ことであった。

その展示が光州の金正勲先生の目に留まり、関心を持たれたことで日韓に跨る歴史の記憶を共に刻むこととなった。2008 年になって光州を訪れた茶谷先生より松田解子著「地底の人々」の存在を知られた金先生は歴史の共有連帯を痛感し、研究の必要性を認識された。

茶谷先生らの尽力で 2009 年 5 月 29 日花岡鉱山七ツ館事件 65 周年を記念して、日本人 11 名、朝鮮人 11 名の殉難者の追悼会と初めてシンポジウムを開催することになった。この日、韓国から殉難者の御遺族も初めて出席された。遺族は碑を抱き撫でて、その拳で胸を叩いて「アイゴー、アイゴー」と歓声する声は、天と地に共鳴し感涙を共にした。

金先生も大館を訪問し追悼式に出席され歴史認識を共有されたことをシンポジウムで報告され、日韓の連帯が深まった。

これまでに金先生は松田解子の「地底の人々」の翻訳、そして「戦争と文学—韓国から考える」「松田解子写真で見る愛と闘いの99年」を韓国で出版された。写真集は解子への深い情愛と孝で実録され、日韓の歴史認識に新たな地平を開拓した。

その日、追悼式に参席された『気骨の作家松田解子百年の軌跡(さきがけ文庫)』の著者である文芸評論家渡邊澄子先生との出会いから、多くの教えを頂いたことで知識を深め厚誼を頂いた。

花岡事件を誘発したのは七ツ館事件である。冷静なまなざしで告発された「地底の人々」から、「正しいものを正しい」という解子の神髄に触れた。人間への愛と人権を圧殺する権力への恐れと憎悪、反戦と平和への闘いに一生を捧げた松田解子の生き方を共有共感した成果であると思う。

この度、光州民主抗争運動45周年を迎える光州市立美術館分館河正雄美術館にて民主、平和、人権の都市光州で朝鮮人の人権を考える松田解子2025国際シンポジウムの開催を祝い、歴史を共有し絆と連帯を深めるより良い成果を心から祈念する。

2025年5月18日

河正雄（ハ・ジョンウン）美術館「花岡ものがたり」を題材にした国際学術シンポジウム

「5・18と花岡事件を関連付けて紐解く」

1945年、花岡鉱山で起きた朝鮮人・中国人419人の虐殺事件を松田解子（まつだ・ときこ）が小説で真実を伝えた

日本人の学者3人がシンポジウムに参加
「光州精神は解子の生涯と重なる」

「光州5・18事件は、ウン・ソギヨル前大統領と光州市民らに、それぞれ違う意味で影響を及ぼしたと思います。ウン・ソギヨルには80年5月18日当時も戒厳令が出ていましたので、これを経験値として自分にもできると思って、今回の宣布に至ったのでしょうか。反面、光州市民たちは、80年に全斗煥一派、新軍部が画策した戒厳令により虐殺を被ったトラウマが植え付けられました。市民たちが広場に集まつたのは、これまで不幸な歴史を繰り返されないという切迫した心情のためであったと思います」

18日、光州市立河正雄美術館では、河正雄コレクション「花岡ものがたり」をモチーフとして、国際学術シンポジウムが開かれた。この日、シンポジウムには日本人の学者3人が参加し、参加者の注目を集めめた。茶谷十六（ぢやうろく）秋田県歴史教育協議会会長、高橋秀晴（たかはし・ひではる）秋田県立大学副学長、江崎淳（えぎき・じゅん）松田解子会代表がこの3名だ。

「花岡事件」は、1945年6月、日本帝国政府が労働力を確保するため、花岡鉱山に朝鮮人と中国人労働者を投入した事件だ。しかし、以後日本の憲兵により419名が集団虐殺されるという悲劇が起きた。

日本の作家、松田解子は、この事件をモチーフとした「地底の人々」という小説を執筆し、日本帝国政府の施行を告発し、謝罪の意を伝えることに力点を置いていた。「花岡事件」以後、詩人や画家などの芸術家たちが当時の事件を木版画（花岡ものがたり）にして制作し、河正雄名誉館長がこれを所蔵するに至った。

『松田解子の文学と生涯』を主題とした今回のシンポジウムで、3名の日本人の学者たちは、基調講演、発表を行った。高橋秀晴副学長が基調講演を行い、江崎淳代表（七ツ館事件と花岡事件の真相）と茶谷十六会長（韓国に拡張する松田解子文学と生涯）は、各々発表を行った。

シンポジウムが終わり、午後7時に光州市忠北路（チュンジャンノ）のラマホテルで日本人の学者たちに面会した。通訳は、この日「文炳蘭（ムン・ビョンナン）と松田解子の抵抗精神」という主題の発表を行った金正熙（キム・ジョンファン）全南科学大学教授が務めた。

シンポジウムが行われた日が、ちょうど歴史的な5月18日であったことから日本人の学者たちも5・18に対する格別な関心を示した。高橋秀晴副学長は「12・3非常戒厳は、市民たちが自発的に立ち上がり、止させたという点で、非常に歴史的な意味がある」とし、「性格は多少異なるが、松田解子の小説『地底の人々』で描かれた弾圧と残忍な出来事は、光州5・



光州市立美術館主催のシンポジウムが終り、日本の学者3人がインタビューに応じた。左から高橋秀晴・秋田県立大学副学長、茶谷十六・秋田県歴史教育者協議会会長、江崎淳・松田解子会代表



日本帝国主義に反対した作家、松田解子氏の遺志を引き継ぎ、日本の学者3人が19日午前、軍事政権と帝国主義に反対した詩人、文炳蘭氏の国立5・18墓地を訪ね、参拝した。<金正熙教授の提供>

18についても、その残酷性等を関連付けて捉える余地を与えてくれる」と語った。

江崎淳代表は「韓国に来る前に、作家ハン・ガム氏の作品をたくさん読んだ。光州が5・18を通じて民主主義と平和を獲得したことは意味のあること」としながら、「日本の花岡事件は自國ではない韓国人と中国人の抗争精神が中心となるため、特異性がある」と語った。

茶谷十六会長は「12・3非常戒厳のとき、軍隊が国会に入ってきたが、発砲もせず、消極的に行動していた場面が印象的だった」とし、「戒厳令が解除された途端、日本では即刻これを報道した」と語った。

高橋秀晴副学長は「光州民主化運動について知っていたが、光州に来てみると、実際に起きた出来事が想像以上だったことに驚かされた」と話した。

また、彼は「今回のシンポジウムにて松田解子と光州5・18を関連付けてアプローチした金正熙教授の観点が特異的だった」とし、「詩人の

文炳蘭氏と松田解子の抵抗精神をクローズアップする良い機会だったと思う」と言及した。茶谷十六会長は、文炳蘭氏との出会いについて語った。彼は、去る2014年に光州に訪問した際、詩人と知り合ったことについて回顧した。茶谷十六会長は「文氏は、全体的に柔らかなイメージだが、抵抗詩を書き、帝國主義批判のための作品を生み出す面においてはすば抜けているようを感じた」と語った。

彼は、5月18日に光州でシンポジウムを開催できたことについて、並々ならぬ思いを語った。「花岡ものがたり」を扱った小説や版画は、平和を主題としているため、光州市立美術館に最も相応しい作品」とし、「平和と民主化のための光州市民の抵抗と光州精神は、日本帝国政府による植民地時代における朝鮮人のヒューマニズムを堅持した松田解子の生涯と重なるところがある」と述べた。

/文・写真=パク・ソンジョン記者

skypark@kwanju.co.kr

祈りの美術・河正雄コレクション『報恩』展での挨拶

本日は御多用の中、寒波例年ない雪の中『報恩展』(会期 2025 年 2 月 21 日～3 月 30 日)オープニングセレモニーに多数御列席下さり厚く御礼申し上げます。

田口知明仙北市長並びに黒沢龍巳仙北市議会議長様よりの御挨拶を頂き、そして感謝状まで下さったこと感謝に堪えません。

中国後漢時代の崔瑗、崔子玉の詩に「人に施しては慎みて思うなれ。施しを受けては慎みを忘るるなれ。」「人の短を言うことなれ。己の長を説くことなれ。」という教えがあります。この教え通りの心の交流が成されたこと、喜びに堪えません。

畏友・西木正明(1940 年－2023 年)氏が 1993 年に私の著作『望郷・二つの祖国』に「河正雄の存在感」というエッセイを寄せて頂きました。

この度、その存在感を問う『報恩』展が開催されることとなったのは、私にとって必然の出会いでした。友こそ宝と申します。本日この席に西木正明氏が居ないことに哀惜の念は募るばかりです。中学時代から生涯に渡る良き友に出会えた幸せには感謝しかありません。

「礼とは自己の存在感の表現である」という伊藤日出男氏の庭訓は「宇宙界・自然界・生物界・人間界における調和の取り方の表現である」との教えです。

この度の『報恩』展は自己の存在感の表現であると思います。展覧の意義や意味に於いて、調和の取り方に於いて、表現が十分になされ、礼は充分に尽くされているだろうかと考えます。

これまで足りぬ、行き届かぬ失礼の断を温かく見守って下さった皆様の温情に救われて参りました。私の存在を観る、計る、評価は観覧者である皆様方に全てを委ねる展覧会になるであろうと思います。そう思うようになると諸々の考え、杞憂は私から離れ楽になりました。

秋田工業高校 3 年の時に読んだ安倍能成著『青丘雑記』の「浅川巧さんを惜しむ」の文中に「その人間の力だけで露堂堂と生き抜いて行った」とあります。

以来、露堂堂と生きた浅川巧に憧れ敬愛し、その生きざまから処世の指標を得て歩んで来ました。

禅語『明歴歴露堂堂』の捉え方を「良いことをすれば良いことで表れ、悪いことをすれば悪い結果で表れる」と私は解釈しました。故に『露堂堂と生きる』が私の自己存在の表現であります。私のコレクション祈りの美術は、露堂堂と私の存在を飾りなく語るでしょう。

この度の河正雄コレクション『報恩』展が幸せと人生の意味を共有し響き合う、祈りの場となりますよう祈念します。

最期に河正雄コレクションを温かく迎えて下さった仙北市民、仙北市教育委員会、仙北市立角館町平福記念美術館、そして遠方首都圏、秋田県内外から御列席下さいました皆々様に厚く御礼を申し上げ、御挨拶と致します。

—『報恩展』祝賀会での挨拶—

極寒、雪の中、足元不安全のところ開会式に引き続き本席に御列席下さいました皆々様に厚く御礼申し上げます。

本日は祈りの美術・河正雄コレクション『報恩展』にあたり、94歳にもなる恩師鈴木重憲先生御夫妻の御列席を頂き光栄の至りです。祝賀会の席を設けて下さった仙北市立平福記念美術館小松亜希子館長様、小学時代からの学友安部哲男先生、司会その他準備に奉仕して下さった佐藤心一先生、そして関係者の皆々様に厚く御礼申し上げます。

2011年2月に本会場で安部哲男先生の御尽力で開かれました『故郷展』の祝賀会のことを思い出します。『故郷展』で送り出された作品は父母の故郷で2012年に開館した全羅南道靈岩郡立河正雄美術館に収蔵されました。

2021年には韓国文化体育観光部から光州市立美術館と共に優秀美術館の認証を得ました。2022年には靈岩郡立河正雄美術館分館創作教育館が増設され、今は中国からの来館者やベルリンでの河正雄コレクション展計画が進むほどに恙無く運営されております。これもひとえに皆様方のおかげと光栄に存じます。

只今、河正雄コレクションは日本での里帰り展も計画途上にあり、2025年韓日国交正常化60周年を記念して、12月に横浜美術館主催の『日本と韓国アートの80年・いつもとなりにいるから』日韓現代美術展、2026年5月には韓国国立現代美術館での巡回展が開催されます。御期待下さい。

本席では私の家族、友人や諸先生方と交流、親睦を深めて下さることを念願します。

重ねてこれまでの御厚誼、御指導御鞭撻下さったことに感謝申し上げ、故郷秋田仙北市の発展と皆様の御健康と御多幸を祈念して御挨拶と致します。

2025年2月21日

仙市田沢湖で育った在日韓国人2世の美術品収集家・河正雄さん(85)。埼玉真川口市でのコレクションを展示する企画展「祈りの美術」が、角館町平福美術館、90点。河正雄コレクション「報恩展」が、角館町平福記念美術館で開かれている。日本人や在日韓国人などアジア圏の作家の作品を中心に、絵画や書などを約90点が並ぶ。30日まで。河さんは大阪府東大阪市生まれ。田沢湖に移り住み、生保内小学校、生保内中学校で学んだ後、秋田工業高校を卒業。川口市で家電販売業を営んでいた。その後、秋田工業高校を卒業。川口市で家電販売業を営んでいた。その後、秋田工業高校を卒業。川口市で家電販売業を営んでいた。

美術に平和の祈り込め

角館町平福美術館、90点

河正雄さんコレクション展



「弥勒菩薩」について解説する河さん

彩画「弥勒菩薩」(80年)は美術品を収集するきっかけとなつた作品だとし、「絵を見て心を奪われた。平和や幸せへの祈りが込められていると感じた」と語った。大陸を赤い四角でデザインし、平和の象徴であるハートを中心配置した河さんによる油彩画「五元」(2016年)も展示している。

河さんと以前から交流のある東京学芸大の李修京教授は「展示を通じ河さんの人生や思いを感じた。またじっくり見に来たい」と語った。

午前9時~午後4時半(入館は4時)。月曜休館。高校生以上500円、小中学生300円。仙市民は無料。

(石塚陽子)

企画展 絵画や書などを約90点が並ぶ

2月21日に開かれたオープニンングセレモニーには、約100人が参加。河さんは「今年は日韓国交正常化から60周年を迎える記念の年。この企画展が国際的にも素晴らしい年に向けて、催しなくなると思っていました」と解説。在日韓国人の画家全和鳳さん(1909~93年)の油

秋田さきがけ (2025.3.3)

『河正雄コレクションで出会う韓国抽象美術展』開幕式挨拶

光州市立河正雄美術館での「河正雄コレクションで出会う韓国抽象美術」展開催の知らせを受けました。河正雄コレクションが多様な方式で企画され、市民に紹介されることができて嬉しく思います。

2004年4月。朴栖甫先生をはじめとする韓国の抽象美術をコレクションすることになった経緯を中心、原稿要請を受けました。亡くなられた朴栖甫先生が「河正雄、気の利いたことを書いてくれよ」と語りかけているようでした。

去る2023年ソウル、光州、日本の多くの美術人を通じて朴栖甫先生の訃報を知らされました。韓国を代表するコンテンポラリーアートの騎手であり、無色(モノトーン、モノクロ)派の巨星を失い惜しい心情でおりました。

私は1983年、第3代駐日韓国文化院尹鐸院長からの東京で開かれた「韓日現代美術展」の知らせを受けて朴栖甫先生を初めて紹介して頂きました。ちょうど李禹煥先生からも案内の電話をいただき、日韓現代作家たちの作品との出会いにも好奇心が湧いて、軽い気持ちで出かけお会いしました。

私は朴栖甫先生が発するオーラとカリスマ性に圧倒されました。人を惹き付ける力溢れる目の光、オペラテナー歌手が歌うように流れる美声が魅力的な方でした。絵から噴出するエネルギー以前に朴栖甫先生の個性から噴出する人間味に圧倒されたのが第一印象でした。

展示会が終わった後、朴栖甫先生がまた会いたいとの電話がありました。東京で展示会を開催していた彼に会いに行き、そこでグループの河鍾賢、尹明老、鄭永烈、崔明栄を紹介されました。

「自分の作品と共に、旅費と滞在費などの経費が必要だから、彼らの出品作を買ってくれば有難い。」という突然の依頼に驚きましたが、頼まれるままに作品をコレクションすることになりました。それは1960年代から故郷の秋田県田沢湖畔に『祈りの美術館』を建てる計画で在日作家たちの作品を収集していたので、韓国の作家たちの作品も必要だという判断からでした。その時収集した作品の全ては1999年に光州市立美術館に寄贈しました。

朴栖甫先生との40年の付き合いを振り返ってみると、彼は寛容で、いつ会っても楽しさと懐かしさを

感じる人でした。

彼はいつも新しいものを吸収しようとする意欲に溢れていたし、サービス精神が旺盛でした。リーダーシップがあり、皆に頼りにされていました。会う度に気持ちよくアトリエへ案内してくれ、作品の制作過程とコンセプトを情熱的に語り描法を説明してくれました。

彼は無頓着に線を引いて筆と遊ぶように、色彩に対しては固定された表現を拒否する感性を現代的に感じました。現代美術の面白さはこのような偶然性の中にあり、それぞれの感性で見るところにあります。

朴栖甫先生は 80 代に入っても創作意欲は衰えず、独特な方式で老いを喪失ではなく新しい可能性として模索する機会と見なしていました。

このような姿勢と輝く個性、人間性そのものが朴栖甫芸術の真髄だと思います。朴栖甫芸術に祝福を送り、偲びながら『河正雄コレクションで出会う韓国抽象美術展』開催の挨拶とさせて頂きます。

2024 年 6 月 18 日



右から朴栖甫、金昌烈、尹明老（左）画伯と共に(2012.9.7)

韓屋文化ビエンナーレ開催のためのシンポジウム記念辞

靈岩郡が主催する『大韓民国韓屋文化ビエンナーレ開催のための都市ブランド戦略研究シンポジウム』がソウル市工芸博物館ホールで 2024 年 4 月 4 日に開催された。

私は招待されて記念辞を述べた。

本日は靈岩でのヘリテージビエンナーレ開催を準備するシンポジウムに招請下さり嬉しく思います。

事業紹介と挨拶された禹承熙靈岩郡守の言葉、そして研究発表された先生方の論説には希望と展望があり、胸が熱くなりました。

1995 年、『境界を越えて』というテーマで始まった第 1 回光州ビエンナーレ。1997 年第 2 回光州ビエンナーレはテーマを『地球の余白』として実績を積み重ねました。

2000 年第 3 回光州ビエンナーレのテーマは『人+間=MAN+SPACE』として開催され、光州市立美術館に於いては展示企画委員として『在日の人権展』を企画し、ビエンナーレ展示に参画しました。

私はこの 3 回の開催で広報大使として広報の務めを果たしたことは、美術人生の大事なメモリーであり、その様な実績を忘れずに認められての招請であると誇りに思っております。

私は 1939 年に日本の東大阪で生まれた在日 2 世です。

1974 年、父母が 46 年ぶりに靈岩へ帰郷する際、引率と共に訪問したのが本日まで続く長い御縁の始まりです。

1985 年に竣工した王仁博士遺跡址の復元に関わったことで靈岩郡との御縁が深まり、金逸太郡守の時代 2006 年から美術品の寄贈が始まり、2023 年まで 3 次に渡り 4572 点を寄贈致しました。

その間、田東平群守、そして禹承熙郡守との御縁を深め、2007 年に靈岩陶器博物館 3 階に河正雄コレクション室を開設。2012 年には靈岩郡立河正雄美術館、2022 年には分館として創作教育館が開館しました。

2021 年には韓国文化体育観光部から優秀美術館の認証を得ました。美術作品を寄贈するにあたり、

3人の群守には私の靈岩への想いとヴィジョンを絵に書いて語りました。

靈岩は悠久にして風光明媚な国立公園月出山に抱かれ、4世紀の日本に先進文化を伝えた王仁博士など歴史的人物を輩出した歴史遺産、遺跡の宝庫であります。

これら靈岩の宝をまるごと活かした文化芸術の里、韓屋を活かした村づくりによるいにしえの韓国へのノスタルジーを喚起する望郷の里として世界人の故郷として広める価値があると述べました。

3人の群守は共感、共有した価値認識を受け継がれて、今に至る成果を得るに至ったのです。

この度、靈岩郡が主催するシンポジウムに志ある人達が新しい時代を切り拓く新しいステージに入つたことを喜びます。『昔植えた苗木大きく育つ。今植える苗木将来の大木。』の想いであります。

シンポジウム第1部に於いて『ヘレテージと芸術を通した都市事例の分析』、第2部は『ヘレテージビエンナーレの可能性と都市ブランド』について研究者7名の高説を賜れたことは靈岩にとって光栄であり、未来への大きな希望であります。

私が本日、皆様にお目にかかるて、靈岩郡広報大使として記念辞とエールを伝える機会を下さったことに深く感謝し、春に美しい花が咲き誇る靈岩と皆様方に幸あれと祈念します。

2024年4月4日



韓屋文化ビエンナーレが開かれる靈岩郡立河正雄美術館

「因縁資本」出版記念会答辞

本日は「善盡美盡」メセナの実践－河正雄の人生と哲学の縁を綴った「因縁資本」の出版記念会を開き本を贈呈して下さったこと、私との縁の絆を執筆者を始めとする諸先生方が御出席、御祝い下さったことに深甚なる感謝を申し上げます。

今年3月27日、光州市立美術館分館河正雄美術館での第23回河正雄青年作家招待“光”展開催のため光州を訪問し、姜琪正市長を表敬訪問し午餐を共に致しました。

その席に同席された安敏錫第5選国會議員様が、「河正雄氏が今年はめでたい7回目の卯年の年男であること、今年11月3日の誕生日には『因縁資本』の交友録を出版贈呈し祝いたい」と提言されました。

私は1973年、46年ぶりに帰郷する父母と共に訪韓しました。父母の故郷が祖国との縁を繋いでくれました。父は生涯一度きりの帰郷となり、1975年に亡くなり、今年で49年の歳月が流れました。

その時、韓国のGDPは世界最低ランクの貧困国でした。そのような状況と現実から自分の出来る事を国のために尽したいと決心し歩んで参りました。

中学3年生の時、担任の松本正典先生が「世のため人のために働きなさい」と通信簿に書いて励ましてくれていたからです。

今や韓国は世界上位に入る国となり、経済的にも文化的にも世界の奇跡を作る先進国となりました。私が決意した原点が実り誇りに思います。

国がなく故郷のない日本で生まれ、この世の地獄を沢山見てきました。幸せは天国にあると教わり生きてきました。我々の叡智と献身と努力が実り、天国がこの地上にあることを実感出来たことは幸せです。

そして許乘準総長より3月31日の国立光州教育大学校開校100周年の記念式典に招待され、許乘準総長との出会いとなり、本日の慶事に至りました。

この度の出版、そして本会開催にあたり執筆者を始めとする関係者の皆々様には物心両面の支援と

協力があったこと、その労苦に対して慰労と感謝申し上げます。私と縁を結んだ諸先生方の執筆により、各々の人生の営みが露堂堂と表されました。読者は時代と共に労苦を超えた人生の冥利に尽きる喜びを共感共有されるでしょう。

文は人なりと申します。知性豊かに真実が著されております。情の表現が豊かであり、美しい心が花のようです。その善の意志には理想の善があり、靈魂が清まり鎮まります。

私の墓標は「善盡美盡」です。鶴亭李敦興(1947年-2020年)先生が私の生き様を評し、この言葉を遺してくれました。

許乘準総長は「河正雄が因縁を通じ悟りを得て、仏の生を生きたように私達も河正雄を通じ悟りを得て、その道を歩いて行かねばならない。」と祝辞され著されました。

私は生身の人間であって仏ではありません。悟りや解脱などすることなどなく未熟で必死に今を生きて来ただけです。特別な学問を受けたこともないので、世界が社会が私の学ぶ大学だと「一日一歩一善」を心に刻んで、学び歩んで来たに過ぎません。

10月1日には子と孫たちが妻尹昌子女史との結婚60周年となるダイヤモンド婚の祝いを催してくれました。セレモニーで牧師様が「病める時も、健やかなる時も妻を愛することを誓いますか」と問われ「誓います」と答えました。それは「夫婦共々これからも忍耐します」という新たな宣誓でありました。忍耐こそ幸せの秘薬であったからです。

忍耐を重ねた一日一歩一善の営みが河正雄であり、我が祖国の姿であると思います。この世に、地上の天国を見た、創ったという喜びは人生の冥利です。

忍耐の知恵、日々の研鑽を務め国際人として祖国を誇り、光り輝かしていこうではありませんか。玉は磨いてこそ輝きます。光を当てればダイヤモンドとなって増幅し反射して自分に帰るので。故郷に祖国に光を当て、輝かせましょう。

皆々様の益々の輝きと幸せを祈念し、私の感謝の答辞と致します。御清聴ありがとうございました。

2023年11月3日

인연
자본

因緣資本

하정웅이즘
Hajungwoongism
河正雄主義

하정웅의 삶과 철학 그리고 인연

인연자본 출판기념 증정식



일시 | 2023년 11월 3일 (금) 늦은 4시 30분

장소 | 광주교육대학교 창의융합관 1층 ai-arttech

주최 | 하정웅 인연들 주관 | 광주교육대학교

인연자본 因緣
資本

国立光州教育大学校発行チラシ

河正雄 経歴

かわ・まさお(ハ・ジョンウン Ha Jungwoon)

1939(昭和14)年11月3日・大阪府布施(現東大阪)市生

1 学歴

1947年 大阪朝連布施初等学校入学
1948年 秋田県仙北市立生保内小学校転校
1953年 秋田県仙北市立生保内小学校卒業
1956年 秋田県仙北市立生保内中学校卒業
1959年 秋田県立秋田工業高等学校機械科卒業
2003年 朝鮮大学校(韓国)美術学博士学位授受
2007年 朝鮮大学校(韓国)デザイン大学院招聘客員教

授

2 職歴・経歴

河本電機商事代表(1964年～1977年)
株式会社かわもと代表取締役(1972年～2024)
光州市立美術館終身名誉館長(2001年11月1日～)
私塾・清里銀河塾長(2006年5月20日～現在)
学校法人金井学園理事(2006年7月10～2024年1月
10日)
韓国秀林文化財団理事長(2012年2月～2018年6月)
光州広域市視覚障害人連合会終身名誉会長(2017年
4月26日～)

3 賞罰

1989年 4月20日 第9回韓国障害者の日 国務總理賞
1993年10月 8日 韓国光州広域市名誉市民章
1994年 2月 5日 韓国国民勲章冬柏章
1995年 8月15日 ソウル特別市名誉市民章
2000年11月 1日 第35回光州広域市市民の日
「市民の賞」
2008年 9月30日 第33回韓国靈岩郡「郡民の賞」
2009年 1月 7日 全羅北道名誉道民証
2009年 2月11日 釜山広域市名誉市民証
2012年10月17日 韓国宝冠文化勲章
2018年 9月 5日 国家ブランド振興院2018
国家ブランド大賞
2019年11月 1日 山梨県北杜市制定15周年記念
「市民栄誉賞」
2020年12月21日 韓国文化芸術委員会
今年の芸術 後援人メセナ大賞
2023年 3月25日 日本国叙勲紺綬褒章
(6月9日授受)
2025年 3月29日 王仁賞(韓国・靈岩郡制定)
2025年 6月 12日 石南李慶成美術理論家賞特別賞

河正雄 著書

- 1982年 『全和風—祈りの芸術』(求龍堂)
- 1993年 『望郷—二つの祖国』(成甲書房)
- 1995年 『恨 ’95』(民衆社)
- 1997年 『河正雄講演集「伯仲」』(河正雄を囲む会)
- 1998年 『「縁」朝鮮人無縁仏に捧げる』(河正雄を囲む会)
- 2002年 『韓国と日本 二つの祖国に生きる』(明石書店)
- 2002年 『二つの祖国』(韓国・マジュ・翰社 ハングル版)
- 2006年 『祈りの美術』(イズミヤ出版)
- 2006年 『念願の美術』(韓国文化交流センター ハングル版)
- 2008年 『尋劍堂』(イズミヤ出版)
- 2010年 『尋劍堂』(韓国文化交流センター ハングル版)
- 2010年 『和田和雄「美の黙示録」』(河正雄編)
- 2014年 『予響曲』(イズミヤ出版)
- 2014年 『ナルマダハングルム・毎日一歩一歩』(メディチメディア社 ハングル版)
- 2016年 『ナルマダハングルム・毎日一歩一歩』(メディチメディア社 ハングル・日本語版)
- 2017年 『ちちははの思うことのみ』(KOREA TODAY ハングル・日本語版)
- 2018年 『傘寿を迎える堂と生きる』(日本語版)
- 2019年 『令和を迎える仏光普照』(日本語版)
- 2020年 『令和を迎える仏光普照』(ハングル版)
- 2020年 『河正雄コレクション資料集第1号 関根伸夫』
- 2021年 『河正雄コレクション資料集第2号 川田泰代』
- 2021年 『河正雄コレクション資料集第3号 岩田健』
- 2021年 『河正雄コレクション資料集第4号 江上越』
- 2021年 『河正雄コレクション資料集第5号 菊池一雄』
- 2022年 『河正雄コレクション資料集第6号 千葉成夫』
- 2022年 『河正雄コレクション資料集第7号 植松永雄』
- 2022年 『河正雄コレクション資料集第8号 河明求』
- 2024年 『河正雄講演録』
- 2025年 『アートでつなぐ』(クオン)
- 2025年 『架橋雑記』(明石書店)
- 2025年 『二つの祖国を生きる 在日コリアン美術家たち』(明石書店)

私塾清里銀河塾

河正雄挨拶録

2026・8+8

米寿に寄せて

2026年2月10日発行

編著・発行 河 正雄

〒333-0815 川口市北原台 1-24-31

Tel 048-295-5267 Fax 048-297-3201

E-mail : j.ha.inori@key.ocn.ne.jp

<https://www.ha-jw.com/>

制 作 菊地 正志

印刷製本 株式会社 双信舎印刷

非売品

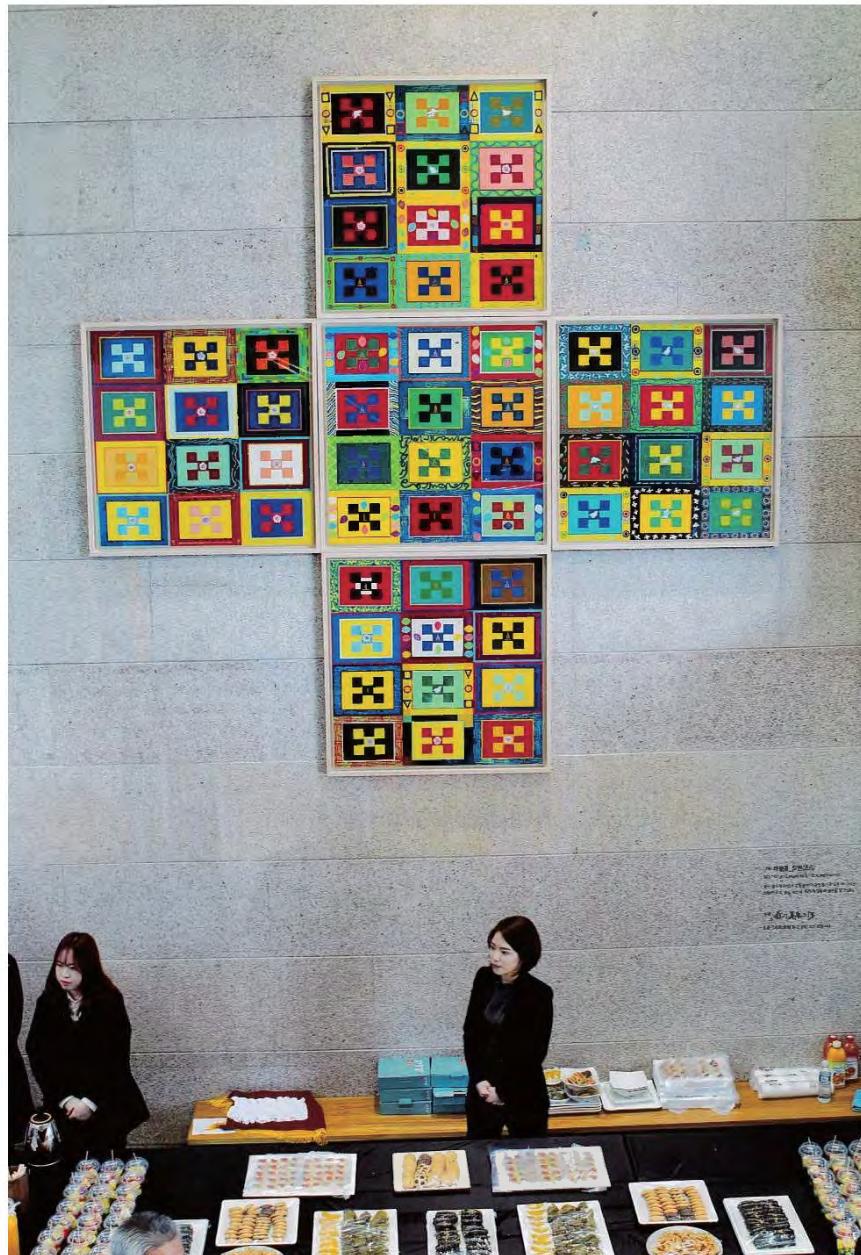


河正雄のLINE

【表紙】友野晴香絵「跳躍」(2025 アクリル)

【裏表紙】河正雄絵「五元」(2012 油)

光州市立美術館 河正雄美術館ホール



—— 河正雄挨拶録 ——

2026・8+8

米寿に寄せて